

は、斷然排撃しなければならぬ。世界の人の心に懇へて、彼らが如何にしても協力せざるを得ぬだけの迫力のある文化をこそ求むべきであらう。それだけに、日本現在の文化的水準にまで、大東亞各地域の住民を育成することを、建設事業の主要眼目のことくに心得て、彼處此處と馳けまはるだけとしたら、自分の研究はそつちのけにして、ただ方々講釋して廻つてゐる教師たちのやうなもので、その行末は心細い限りである。大東亞文化を云々することもよいが、いかにして、日本の文化を世界の最高峰たらしむべきか、新しい世界文化の建設に關聯して、日本の學問、日本の技術、日本の倫理をいかに高く、いかに廣く、また深からしむべきかが、最も工夫されなくてはならない。問題は内にある。政治を行ひ、經濟を營むにあたつて、日本の文化それ自らを擧が上にも雄大深遠なものにすることを後廻しにして、水準の低い住民を相手に、指導者氣分に浸るやうな安易さがあるのでは、差當り、大東亞文化の建設さへ覺束ないでもあらう。眼は外に向つても、心は深く内に養はれねばならぬと思ふのである。(昭和十七年十月)

## 東亞經濟の新生

(昭和十七年七月經濟俱樂部講演)

支那事變以前の、既に何年か前、滿洲國の生れた當時から、日本のやつてをりますやり方といふものが、どこでも同じやうなことを繰返し繰返しやつて居るやうに考へられるのであります。それに就いてそのやり方が適當であるかどうか、今後續けて行く場合に、どういふことを考へたらよろしいかといふことを、上海のやうな所に居りまして見たまま感じたままに若干申上げたいと思ひます。

昭和十五年の夏に、經濟聯盟の關係で、アメリカから經濟使節として、オライアンといふ方が日本にみえまして滿洲や北支や中支那を視察してからアメリカに歸つて報告してゐるのであります。

すが、その一行が上海にも來まして向ふからいろいろ質問がありました。その時、日本の東亞新秩序といふやうな、いはゆるニューオーダーといふものがどうもハッキリしないが、何かそれに就いて話を聞きたいといふ註文でございました。私は日本の考へるニューオーダーといふものは、一口にいへば、良いお隣を持ちたいといふことだ、これがニューオーダーの根本の意味だ、それがため我々は、滿洲事變以來努力をして來て居る、良き隣人を持ちたいといふことが日本の要求だ、それがニューオーダーを打樹てることになるんだといふ話を致しました。それに對して、向ふになかなか理窟をいふ男が居つて、良き隣人を持ちたいといふのは何のためだ、といふ話です。私はそれは日本の理想主義と申しますか、ロマンチズムとでもいひたいものだと思つて居るのだと話しましたが、それにしても何かそれを望む理由があるのだらう、何かためにする處があるのだらう、と頻りに申しました。

實際、私共は良き隣人をもちたいことのために非常に苦勞してをります。それがため必ずしも日本の經濟上の立場から考へますと好都合なことばかりはなく、例へば今日、中支のやうな所で相當經濟的に苦勞をしてゐるといふこともこのロマンチズムから來る困難を、何とかつくるは

なければならぬといふことからやつてゐるのだ、とアメリカの連中に話したのであります。

其時いろいろ話が出まして、向ふでも今のやうな時局とは非常に違ひますから、アメリカでも日本と相當話合ひをしてみるやうな氣分もあつた時で、向ふとしても話に相當のやうな顔をして居つた譯であります。で、中支の方面ではアメリカの投資といふことに就いて、どんな風に考へるか、どういふ可能性があるか、投資の可能性といふことに對して、どういふ風に考へるかといふ事を申しますので、それに對して、私はあらゆる所にアメリカの投資の可能性があるといふことを以て答へたのであります。唯それには條件がある、それは日本を出し抜かないといふこと、日本を出し抜かないといふことさへ考へるならば、中支那方面で投資の可能性は到る處にあるといふことを考へた方がよからう、と申したのであります。これは實際に我々の研究によりますと支那における外國の投資は全體としては殆んど赤字だといつてよい。經濟的には決して大きな利益をあげるといふ處にいつてゐないのであります。寧ろ大體に於て赤字であるに拘らず、何かそれに政治的な興味がついて廻つてゐるためにうまいことがあるだらうといふことで、だんだんと借款を與へるとか、取れないといふことに又興味を感じて、また貸すといふことをしよつちゆう

繰返してゐるのが、支那に對する列國の投資であるといふ風に考へてよからう。従つてこの政治的なわけの分らんやうなことを當にして投資をやるといふやうなことは、實は廣い意味で考へると列國が支那に醜弄されてゐる、政治的に絶えず切替へをやられて經濟的に損をしてゐながら、又借款をして深味に陥るといふことをやつてゐた。さういふ政治的に曖昧な不合理なものを日本は支那から一掃するため、これだけの努力もし戦争もしてゐるのだから、日本の戦争といふものが、支那に於ける政治的な曖昧さをなくするといふことを目標にして居る以上、日本を出し抜いて政治的な要求をもつやうな、政治的な希望を繋ぐやうな借款をやるとか、投資をするといふことをしたならば、恐らく日本の要求をも、あなた方の要求をも充し得なくなるだらう。經濟的な合理性だけを目的にするやうな投資であるならば、到る處にその機會があるであらうといふ話をしたのであります。

アメリカ人の質問に對して答へるといふばかりでなく、日本の十年この方やつて來て居るいろいろな仕事といふものは、大體に於て何時でもそのよき隣人をつくりたいといふ、ロマンチズムのためにうごかされて來てゐるといふ感じのもので、日本としては大變立派な要求でもあり世

界に主張して恥ぢるところのないものであります。ところがそのアメリカ人は大變あなたほうまゝい説明をする、といふことであつたが、うまいといふことは、さうでなからうといふ風に考へてゐたのかもしれない。私は實際に日本は何時も良き隣人をつくりたいといふので苦勞してゐるといふことを感じるのであります。これは單にアメリカの連中を納得せしむるための一つの口辭ではなかつたのであります。唯今でもさういふ風に感じてゐるのであります。この良き隣人をつくるために、自分の處の都合は何もかも忘れて、一生懸命になるといふことは、恐らく大東亞建設とか、大東亞の經濟をつくり上げるといふことをやつてゐる途中に於て、日本人自身が非常な苦しみを味はふばかりでなく、新しい隣人をつくるその努力は完成しない恐れさへあると感ぜられるのであります。

一體に日本人の、これは非常に美點であると思ひますが、行つた先々が可愛ゆくなり、行つた先の仕事に非常に熱心になるといふことから、かういふ現象が絶えず見られるやうに思はれるのであります。滿洲國に行つて仕事をしてゐる人は、滿洲のことといふと、非常に強く大切に考へ、又北支でやつてゐる人もさうであります。最近恐らくフィリッピン、ビルマ方面で仕事をなすつ

てゐられる人々も、各々その土地の住民を幸福にする、或はそこに安居樂業せしむるために、立派なものにするといふことに非常な努力をばらつてをられると思ふのであります。たとへば南京政府のことに關つてゐる人は殆んど南京政府の中の人であるかの如く熱心に心配をする、よほど熱心でなければなかなかさうはやれないといふやうな感じを受ける場合が多いのであります。最近も、敵産處理といふことでいろいろ軍管理の仕事を委託された銀行、その他の工場の管理に致しまして、非常にさういふ實例が多いのであります。行つた先のものを何だかいいやうに人にも話をするし、自分にもいいやうに思ひたがるといふ。日本人のくせを遺憾なく發揮して居る現地の實例があるやうに思ふのであります。隣の人間を良くするといふやり方は洵に立派な心がけでもありますし、また恐らく搾取であるとか、侵略であるといふやうなヨーロッパ風のやり方、アメリカ風のやり方、近代のキャピタリズムのやり方、帝國主義的なやり方といはれてゐるものと、著しい相違を持つてゐるに違ひない。立派な隣組をつくる、よき隣人をつくるといふことを考へるといふことは、新しい文明を約束するものとして、我々は世界に誇つて宜しいと思ふのであります。唯その場合に、曩に申しましたやうな、一つ一つの隣人を強くするために、方々を馳

廻つてゐる間に、我々自身の立場といふものがどういふことになるのか、大東亞建設といふものがいくつかの中心を持ち、そこに日本人の注意が分散する、といふことになりましたならば、大東亞建設といふものは容易に纏らない。一國の方となつて現れるといふことは困難であらうといふ感じがするのであります。その一つ一つが強くなつて、その強くなつたものが、又集つて日本の援けにもなるといふやうな、時期を待つてゆるゆるやるといふやうな悠長なことでは間に合はない時代であり、また我々がこれを完成するまで、長い間かかるといふ時、いくつかの未完成な非常に弱い國家が出て来る。つまりいろいろ設備をしたけれども資材が足りないで、未動遊休設備といつたやうな隣國が澤山出来るといふことでは相當資材を使ひ、相當動力を持つてゐながら、纏つた生産が出来ない開發計畫と同様なことを、大東亞建設全體に就いて、我々は經驗しなければならぬのではないか。さういふやうな惧れが、今日までの日本のやり方を以てすると、どうも起きさうな感じがいたします。

このやり方を逆に致しまして、結果に於てよき隣人をつくる、よき隣人をつくるために夢中になつてそこに首を突込むといふことをやめるならば他によき方法がある筈であります。日本人が立派なものになる、その立派な日本といふものを見習つて、彼等がなるほどあの状態にならうといふ風な具合に、自然に結果として、よき隣人が出来、よき隣人をつくるといふことにしたい。差當り性急な註文をしないで、結果に於て、良き隣人をつくるといふことにするならば、日本のロマンチズムといふものが充分満足されながら極めて健全な姿で進むのではないかと思ふのであります。例へば我々は中支那のやうな所で力を盡す、或は北支那の開発のため骨を折るといふ時、日本自身重大な設備維持のために必要とする資材が相當に多い時に拘らず、向ふの住民達へ日本といふものを見せるためこれもあれもやつて見せて置かうとする事は日本といふものを見せ信頼させるための計畫でもありませう。しかしまた立派な機關車もつくつてみたい、港の設備もつくりたい。日本では、やる場所もなく、やらせてもくれないが、それなら一つ上海につくらうぢやないか。上海、南京の間にすばらしい汽車を通してみせようかといふ。技術家の或る満足のためにやつてゐるんぢやないかと思はれる場合さへ、我々は見せられてゐるのであります。日

本の建設計畫といふものに就いては、相當に考へた部分もあり、考へない部分もあつて、甚だをかしいと思ふ場合がある。其場限りのやうな場合が随分多くて、もう少し何とかしたらよからうといふ場合も少くないのであります。これは極めて卑近な例ですが、御承知の如く、上海で新しい都市計畫といふものを樹てまして、新市街をつくつてをります。行つてごらんになつた方はお分りと思ひますが、大體蔣介石政權が、上海の租界といふものは、動かすべからざる勢力であるといふことを前提にして置いて、その上でそれに對抗するやうなものをつくらうぢやないか、といふことで考へてつくつたのが、あの新市街の計畫であつたのであります。日本は上海といふものに對して實力を有する。上海の租界といふものに對して、相當程度これから壓力を加へ、場合によつては、日米或は日英戦争といふものを覺悟してやらなければならぬ、さういふ場合に租界をとつてしまふといふことは、私共肚の中にしかと持つて居つたに拘らず蔣介石政權が計畫致しました都市計畫その儘——その儘でなかつたかもしれません、かなり似た形のものを實行することになつて居ります。それが發表されて間もない頃に、私は、租界といふものが今まで通りの條件の下にあるといふことを建前にして都市計畫をすることは適當ではない、日本は租界とい

ふものの意味をまるで違つて考へてゐる、あの地域を選び、ああいふことをやるといふのは、をかしいぢやないかといふやうな話もし、新聞等にもさういふことを書いたことがあります、今日のやうな状態になりました日本が租界進駐をやる、英米の勢力はだんだん東亞から根こそぎになつて行くその状態といふものを、率直に反映してゐる上海のやうな所を見て、その建物であるとか、或は碼頭の設備であるとかが全部日本の管理の下に屬するといふ状態になつた時、所謂新都市計畫といふものは見る影もなく崩れてしまつたやうな感じを起すのであります。我々が三、四年前をかしいと思つたものが、かういふ恰好で非常なをかしさを現して居る。一體日本の計畫をする人はさういふ問題に就いて何を考へたのであらうか。上海全體を我々が勢力範圍にするんだといふことを考へるならば、何故租界に對抗するやうなものを上海の横にくつ附けてつくらうとするのか、何年も経つてから日本の手でやるといふことをなぜ計畫するのか。さういふ點でも日本の現地に行はれる計畫といふものに、必ずしも深い考慮の下にやられてゐるとは云へない場合が非常に多いのであります。またかういふ實例を擧げて居りますと、恐らく際限がないだらうと思ひます。

曩の問題に戻りまして、我々の良き隣人をつくるといふ努力が、さういふちぐはぐな計畫で進められてはいよいよたまらないといふ感じが致しまして、若しさうでなくして非常によく行はれた場合でも、いくつかの地域に互つて、それぞれの勝手にそこに立派な國をつくるんだ、といふことを看板にされるといふことになりますと、日本の力といふものはなかなかそれに追つかないことになるのではなからうか、又逆な場合を考へれば、隣人のためによくしてやりたいといふ心が動いた一つの現れは最近に於てよく聞きますやうに、南方に物資を送らなければならない、イギリスやアメリカやオランダからいろいろな物資が入つてをつた、それらの物資は戦争のために入らなくなつた結果、彼等の生活が非常に不自由になつて來た、その不自由になつて來たといふことを思はせることは、民心を把む上によいことでないから、出来るだけ物をやる、さういふやうな隣組の連中をいたはる氣持といふものがなかなか働いてをりまして、日本ではミルクを飲まなくても南洋でコーヒを飲む時ミルクを必要とするので供給しなければならぬといふ考へ方をする人が少くないのであります。さういふやうな隣人をいたはる、隣をよくしてやりたい、自分の不自由といふものを構はず、さういふものをいたはつてやりたいといふ氣持が餘り極端になつ

て行くと、日本では子供と病人とだけしか牛乳が飲めないといふことになり、それが本氣に實行されるやうな結果になる。その結果相當厄介な話になる、そんな感じを起させられるのです。

先づさういふ方面から考へて、私は日本人自身を強くするといふことを先にやつて頂きたい、誰もさう思ふのぢやないかと思ふのでありますが、實際日本の今日まで三年、五年、或は十年と長い間やつて参りましたことは日本自身を強くするといふことに全力を擧げてゐるとは思へない場合があります。力を分散して居るといふ感じがあるのであります。相當日本が自分を強くすることに就いて下手をやつて居るし、ヘマなことをやつてゐるんぢやないかといふやうな意見もあるだらうと思ひますし、我々もそれを感じるのでありますが、もつと率直に我々の國を先づ完全なものにする、日本を立派なものにする、誰が見ても日本といふものは立派なものだといふことを考へるやうに仕向け、さうして滿洲であるとか、或はその他の地域に在るものが日本の眞似をするといふことを心がけるやうにしむける、そして我々は自分を強くするといふことに全力を擧げるといふことをやつて頂きたいと思ふのであります。これは何も日本内地といふものを強くするとか、立派にするといふ問題ばかりではありません。日本人は外に出て行つて現地にある場合

に於ても、その日本人を先づ立派なものにする、強いものにする、偉いものにするといふことを中心に考へ、同時に日本人が自分は立派なものになる、自分は強いものになるといふことさへやるならば、あへて支那人に對して宣撫であるとか、教化であるとか、或は何か一つの親切な世話をするといふことをわざとやらないでもよいといふことになるのであります。つまり日本人自身が毅然たる態度を以て自信を持つて自分の日常生活をやつてみせる、日本人といふものは何だか知らないけれども、非常に自信を持つて前から支那にゐるんだといふ顔をして思ふ通りのことをやつてゐる、自信を持つてやる人間に對してならば、彼等もそれと一緒に仕事をするといふことにも安心が出来るといふ感じを自然もつやうになると思ふのであります。お前なんか來なくてもよろしいといふやり方をとつてゐると、自信を持つて一人でも行けるんだから、一緒に取引してもこちらは取られる見込はないといふ感じを持つたらうと思ひます。あなたと一緒に仕事をやらませうといふと、一人では仕事が出来ないので自分を誘ふんだらうといふ邪推を起す。これが恐らく支那人の氣持だらうと思ひます。黙つて知らん顔をして行く人間に對しては、犬は跟いて行つても吠えない、時々振返るやうな人間には犬でも馬鹿にして吠えるといふことがあるのであり

ます。どうもその點で今日までの日本のいろいろなやり方といふものを見てゐると、日支合辨、日支提携、日支親善といふことを言つて、何か支那人と一緒にやらなければ日本は立行かないのだといふ感じを相手に思はせるやうな節があつた。それが共同の目的を達する所以だとか、共存共榮を實現するために必要だとかいふ考へ方でやつて居るやうであります。結果に於てはさうでございませぬ。甘く見られるとか、軽く見られるとか、力がないものと見られて、此方は向ふをよくしてやりたいと思つて、親切なよき隣人になつてもらひたいと思つて骨を折るが、向ふは、何か自分に對してさういふ態度を取り、兎や角と氣にかけなければならぬやうな引け目でも日本にあるんだらう。或は日本はさういふことでもしなければ立行かないのだらう位にみる懼れが多分にあるのであります。私は日本と支那と一緒にやらなければ出來ない、東洋の平和の途は他にないといふやうなことをあまりいはないで、日本だけで出來るんだ、といふことにして置いた方が本當だと思ふのであります。日本だけで出來るといふことにして置くと、一人で出來る所へ一緒になつても、これは食はれる心配はない、むしろ長者にくつついてゐるならば幸ひもあるかもしれないといふ考へが生れる筈であります。それを頻りに日支親善せざるべからず、提携せざるべからず、合辨せざるべからず、といつてゐると逆の效果を生じる懼れがあるのであります。

## 三

經濟提携、日支合辨といふことは、民間の人が支那人と合辨でやるといふことだと考へる外交家、政治家、軍人或は民間の人達がゐるのであります。根本に於てこれを考へ直して行く必要があるのであります。經濟提携といふことは、これは政治上の原則でありまして、支那を代表する政府に向つて日本政府がこれを要求しまして、向ふがそれを納得した政治原則の一つである筈であります。三つの原則の中の一つが經濟提携であります。元來自分の經濟上の缺陷、或は日本に劣つて居るといふことを經濟的努力によつて回復しようといふ盡力をしないで、政治的手段を弄して日貨排斥であるとか、日本人を居堪れないやうにするとか、やつたのであります。經濟上の敗戦を政治的な策謀を以て埋め合せようといふ努力をやつてゐたのが、支那の經濟界のやり方であつた譯であります。日本の紡績會社のやうな製品が到底出來ないといふことになりますと、取敢へず日貨排斥をやる、さうして税金を掛けるといふやうな策動をすることによつて、日本と



の經濟上の差を埋め合さうといふことをやつて來たのであります。さういふことは一切許さん又やらせないといふことを、支那政府が日本政府に確約したのが經濟提携すなはち經濟上の問題を處理することに、政治的にごまかすやうなやり方をとらない、これが大きな經濟提携の原則であると思ふのであります。従つて日本人は、例へば紡績會社を合辦で經營しなくとも宜しい、立派な製品を支那でつくつて賣擴めて行く、これが出來るといふことが經濟提携を實行する一つの現れであります。結局支那人と同じ會社で、同じ組織の下に合辦をやる事が經濟提携でも何でもないのであります。それにも拘らず、兎角今までのやり方といふものは、經濟提携といふ場合には日支合辦で會社をつくる事のやうに考へ、それを獎勵する、これは甚だ考へが淺いと申さなければならぬのであります。合辦事業といふものはなかなか出來る筈はない、これを支那人に對してどうだと言つたり、日本政府當局の方から合辦を慫慂するといふことをやりますと、彼等はつけ上るだけであります。我々はさういふやうな何か物欲しさうに彼等に頼んで、一緒にやつて行かうといふ感情を有つ譯でもなく、さういふ風に思はせる理由はちつともないのであります。むしろ我々としては思ふ存分のことをやつてみせる、日本自身が立派な仕事を東洋につくり上げる

といふことを考へる、これを見た支那人は頼母しいから一緒に仕事をして頂きたいといふやうなことを云つて來る筈である。何も此方から求めるべきものでないと思ふのであります。これは日本が今後東洋に於て仕事を進めて行く時の根本の方針と致しまして、向ふでいい事業を起したい、いい會社をつくらせたいといふことを頻りに考へる結果として相手を根本にして考へる、相手の云ひ分を出來るだけ尊重して、かうしなければこの事業はうまく出來ませんから資材を下さい、何を下さい、よろしいといふのでいろいろ授ける。授ければ授ける程向ふは蔭で嘖つてゐるといふ状態が出來たんでは、我々の建設といふものは何のためにやつてゐるか分らない。我々自身が強くならなければ結局馬鹿にされる、馬鹿にされるといふことは政治的には最も重大な、恐るべき事だと思ふのであります。さういふやうな形がだんだんに今日までのところ出來上る懼れがある、今まで日本に對する事變以來支那人が尊敬するといふ場合は、負けてゐるためにくやしいといふことによつて尊敬しないかもしれませんが、日本が思ひ切つた事をやつた時はじめて、日本は偉いとか恐るべきだと思ふのであります。御氣嫌をとつた時には決して彼は喜ばない、蹤いて來たためしが無い、さういふ意味で我々は、どうも東亞經濟といふものの新しい性格をつく

りあげるには、日本自身を強くする、さうして日本自身が強い生活をやつてゐるといふことを彼等に見せる、彼等はその風を望んで集まる。ああいふ風にしたらよろしいのだなと云ふことで見做つて来る。このやり方は日本人にとつて、出来にくいことであるかもしれない。自分だけを強くする、相手の都合を構はず日本を強くするんだといふことを考へる時、これは先程も申しました通り、英米の帝國主義であり、或は資本主義の策略といふものと同じではないかといふ懸念を持ちまして氣を弱くするところから、さういふ他國の例を引いて、日本人自身が彼等と同じことをやるといふことになるのぢやないか、それではいかん、向ふと違つたことをやらなければならぬのだ、さういふやうな考へ方をする人も相當あるのではないかと思ふのであります。

また原住民に對していたはるといふ方面でも、日本のやり方は親切ではあるが、中心がハッキリしない。皆各部門各方面にばらばらに力が分散して行くといふ場合が多く、今までは中心があつて、それが搾取の本體であるといふ場合と、非常に違ふといふ風に、むしろ分散的に、遠心的に考へる方が、昔の英米等のやつて居るやり方と違ふのだ、其方が氣に入るといふ日本人も少ないのであります。併しながら、これは先程申しましたやうに、日本人自身がよき隣人をつくり

たい、といふやうな根本の主旨に従つて、凡そ、そのあるべきところの、よき隣人のあるべきところの姿といふものは、例へば斯ういふものだといふ考へを示すやり方が、これがつまり日本のよき隣人をつくり出す、日本人自身が本當に中心になつて大東亞建設といふ國策を搖ぎのないものにしてゆくといふ唯一の方向であると思ふのであります。その點で日本が先づ強くなつてお手本を示すといふやり方をとり、それが搾取とか、侵略とか氣苦勞をすべきものでないだらうと考へてゐるのであります。

## 四

次にそれではこの日本の大東亞建設といふ具體的な形はどんな風にあるべきものであるか、といふことに就いて、いろいろ意見があると思ふのでありますが、私は大體に於てこの大東亞共榮圏といふものが北は滿洲北支から、南はジャバ、スマトラに互つて澤山の支那人が居る、この支那人が大東亞共榮圏の人口の大きな部分を占めるといふ事實から考へて、それらをどう取扱つて行くかといふことが中心の問題になると思ふのであります。これらの連中を大東亞共榮圏の政治

目的、或は文明の目的といふものに向つて充分その實現に役立つやうな人間に育て上げるといふことは相當困難であり、それを解決しようとして性急に宣撫工作に氣を揉んでもだめに決つて居るやうに感じます。さういふ點は相當程度諦めて、それらには、日本人と違つたその性に合つた作法をもたせる、日本國民と彼等とは違つた方式で暮らせるといふことがむしろ必要であります。なんでも日本人と同じことをさせなければ氣が濟まないといふ潔癖な態度をとらないやうにして頂く必要があると思ふのであります。今まで日本人がいろいろやつて参りましたやり方といふものは、日本でやる流儀を支那の生活の中にぶち込んで行く、さういふことはやらないやうに心がけて置かなければならない。支那で、事變以來行はれた日本の施設といふものは、大體に於て支那の經濟の中に差をつくるといふことになつて居るのであります。彼等の生活の中に日本が入つて行つて一定のモラルを打樹てるといふことになつて差ができる。この差がつくといふことは支那人にとつては儲け仕事になる。これはあらゆる場合に商賈人的な感覺といふものからいつて當然であらうと思ふのであります。差があればそこに賣つたり買つたりする餘地が出来ます。差別のある所に儲け仕事があるので、清郷工作といふものが始まりますと、その行はれる地域の内

と外とで、相當差別が出来ますから、そこに一つの金儲けのタネが出て來るといふやうなことで、あらゆる方面に差があるといふことは、彼等の興味をそそり、投機心を誘ふといふやうなことになるのであります。これは一般に紡績會社あたりの製品に致しましてもさうで、値段をわざと動かしてみせる。動かしてみせるほど、支那の商賈人が乗り出して來る。値段が變つてゐないと腕を振ふ餘地がないから入つて來ない、それで一生懸命差に乗るとか、あらゆる場合に差をつくるといふことをやつて居る、ところが日本は仕事をはじめた時から差をつけることばかりやつた。少くも結果に於ては非常な差がつくのには、わざわざ行つて差をつけてやつて居るといふ場合さへ相當見られるのであります。かなり無駄な差があります。放つて置けばよいと思ふ場合でも差をつけてゐる實例があるのであります。支那にたいする政策といふものは、私の感じからみますと、支那人、その他の場合でも似たりよつたりであるかもしれませんが一般に物をつくる、價值をつくり出すといふことを考へるのでなく價值の差を狙ふ、何でも差だけを狙つて行くといふやうなやり方をとつて居る人間であります。これに對して、わざわざ投機に對して好都合な目的になるやうなものだけを、つくつてやるといふ努力をするといふことは、出来るだけ避け

たいのであります。差をつくつた場合には、つくつた方が向ふの利益を負擔してやるやうな結果になるので、日本の費用で彼等に稼がれて居るといふ場合が非常に多い、今後とも日本の政策としては、どうしたならば差をつけないで済むかといふことを、心がけるといふことが必要であらうと思ふのであります。

以上述べました關係を形容的に申しますならば、日本は東亞共榮圈の中で全體として、武士階級のやうな地位をとり、支那人に或はその他の住民に對しては、町人の立場をとらせるといふことより他に行き方としては、適當な方法はなからうと思ふのであります。ただ武士といひましてもボンヤリした恰好の武士ではございません。町人を指導し、町人階級が充分尊敬を拂つて、さうして國全體をすすめて行くだけの力を持つ、さういふ武士でなければならぬのであります。日本國民といふものは、全體として支那に、或はその他の住民に對して、武士のやうな地位をとるのであります。日本の國內としては國民全體が武士でありますから、その中では別に武士であるとか武士でないとかいふ區別がなくなつて、仕事の上で軍事、經濟、政治といふものの分擔があるだけであります。

これはつまり國內の關係から行きますと、政治經濟、軍事その他のものが縦に並ぶのであります。それが全體として、その他の東亞共榮圈の住民に對して、一つの武士階級のやうな地位を以て臨む、町人には好き勝手な事をさせるだけの雅量を持ち、同時にその町人が或る範圍を超える、或は共榮圈の統制を素すやうなことのないやうに統率をして行く、さういふ仕組で東亞共榮圈全體をつくることを以て、我々が望むところの共榮の目的といふものが出來上るんぢやないかと思ひます。日本がかういふ風に立派な全體として一つの武士階級の精神を持つ、さういふことが出來ることが先決問題であります。漫然と善隣をつくるといふやうなやり方ではなく、日本國民が一つの全體として武士階級のやうな公けのために生きるといふことを、本當に考へてやらなければならぬといふ時節が、今日我々の前に立ち到つて居るといふことを、つくづくと感ずるのであります。

昨今日本で頻りに經濟方面等に營團といふものが出來て參り、食糧營團、産業設備營團、その他いくつかの營團に就いて考へられてゐるやうですが、大體からみてこの營團といふもの考へ方は、丁度明治の初め頃に會社が出來た時の感じに似たものではなからうか、日本の生産を盛ん

にしなければならぬが、生産階級が非常に少くて消費階級が多い、武士階級といふものが餘り多くて釣合ひがとれない、これでは困るといふので、生産分野に澤山有爲の人材が出て行つた。その場合武士階級の精神を以て經濟上の、公けの組織を支へてみせるといふ考へ方が、日本の會社事業といふものを、或る程度立派なものに、今日まで發達させた根本の理由ではなかつたか、例へば支那では、さういふやうな立派な武士階級といふものが公けの精神を有つて經濟界に乗り出すといふことがなかつたから會社事業といふものが今日でも絶えずいい加減なものであり、あやしいものであり、到底合辨なんか出来るものでない、そこに大きな規模の經營が出来なかつたといふ理由があるのでせう。恐らく明治時代から武士階級の傳統に生きた人々が、日本の會社企業といふものを立派な指導精神を以て導いて居たのであらうかと思ふのでありますが、さういふ意味が今度はもう一遍新しくなりました、もつと廣い大きな大東亞共榮圏といふものをつくり上げるといふことになつて、日本國民としての經濟上の使命といふものも、又格別大きなものになつた。會社企業が、うまく行くだらうか、どうかと、恐らく江戸時代の末頃に育つた町人階級には危くても見當もつかなかつたやうな仕事も、武士の奉公の精神を以て行つたために、健全な發達

をみた。その傳統が新しく生きて來て、大きな公けの精神を以て仕事をすすめなければならぬといふ處に、或は今日の營團といふものの特殊な使命なり、存在の理由があるのではないかといふ感じをもつものであります。必ずしも營團といふものは、現在考へられてゐる形式でよいとはきまりませんが、少くともさういふものが考へられるやうになつたといふ處に、日本の經濟といふものが如何なる方向へ進まうとして居るかがわかると思はれるのであります。このやり方が普及致しまして、恰も日本の明治、大正を通じて、會社企業といふものが成績を擧げたのと同じやうな意味で、公けの經濟といふものが有力な發展をとげることになる。さうして日本國民といふものは、さういふ時代に東亞共榮圏の中で申してみれば、武士階級のやうな意味合を持つといふ時期が、その中に來るのではなからうかといふ感じを持つのであります。

これは一つの書生らしい夢に過ぎないかもしれませんが、今日まで日本の事變以來やつて居りますいろいろなことをみて、いいものをつくつてやらうといふ親切心で馳廻つて居るといふことも、かういふ大戦争になつてからは、一遍止めて、元に戻つて、自分自身を完成する。自分自身を立派なものにつくり上げるといふことに努力を集中したらよい。一遍手綱を引締めるといふこ

とをやつて頂きたいといふ素朴な考へに他ならないのであります。

## 現地經濟工作を觀る

(昭和十五年十一月經濟俱樂部講演)

上海へ参りました二年餘り暮して居りました間、特に纏つた勉強をして見るとか、或は特別な組織的に段々積上げて行くと云ふやうなことをやつた譯ではございません。商工會議所と云ふものは、御承知のやうに大體毎日が途切れ々々の仕事でございます。居なければ居ないで何とかそれで片附いて行くし、居れば居るで忙しいと言つたやうな妙な仕事で、私のやうな不慣れな者でも、其の意味でまあ間に合つてゐるやうな恰好になつて居るのであります。其の間に多少見聞しましたことについて何か申上げて見ることに致します。

従來私の専門と申しますか、學問上の問題として研究して居つた事とは、支那の事柄などと云

ふものは餘程懸け離れて居りましたが、學生時代には非常に興味をもちまして上海に一夏行つて居りましたり、色々なことで割に熱心に支那のこの勉強をやつて見たことはあるのです。然し長いことヨーロッパの思想問題とか、哲學とかを研究して居つた人間でありますので、經濟學の方も迂遠でありますし、また經濟事情と云ふやうなもの常識のない人間が飛込んで行つて、其の學句に非常に錯綜した經濟關係について考へるのでありますから、到底分ると云ふやうな段取には行きかねたのであります。唯こちらから出掛けます前、一昨年夏頃、法幣に就いて頻りに話が出て居りましたが、どちらかと云ふとそれらの議論が餘りに之を政治的に考へ過ぎて居つて、經濟貨幣（言葉は適當でないかも知れませぬが）すなはち經濟的な理由を以て法幣が支那の經濟社會の貨幣として行はれて居ると云ふ方面を餘り軽く見て居やしないか、むしろ無視して居るやうな議論が多かつた。蔣介石の貨幣、或は蔣介石の出して居る紙幣と云ふやうな風に、殆んど蔣介石の名刺でも見て居るやうな具合の話を度々聞きましたので、其の點に多分に疑ひを持つたのであります。少くとも幣制改革はその動機はともかく、全然さう云ふ下地のなかつた所へ突然紙幣を發行したわけではなかつたことは、御承知の通りの事情であります。是は支那の經濟

社會の必要に應ずるやうな、經濟貨幣としての役立ちを相當持つて居るものなのぢやなからうか、さう云ふ意味で日本での議論が、蔣政權を倒すためには法幣をやつつけなくちやならぬと云ふ、ああ云ふ政治に偏した考へ方には多分に無理な點がありはしないかと云ふことを感じて居つた。今日でも尙餘りに之を政治的に解釋する傾向が残つて居る。二年も、三年も掛つて尙それを拭ふことの出来ない位に、さう云ふ氣分があると云ふことを、むしろ非常に遺憾に感じて居るのであります。

それから上海に参りましたから、或る處で日本の中支那經濟對策と云ふものをどう云ふ風にしたら宜いと思ふかと云ふことを尋ねられました。私はどうも來たばかりでもあり、素人で實情も能く分らない所で兎や角申上げると云ふことは、どうも意味がないと思ふけれども、併し大體日本は通貨工作と云ふことを考へない方が宜からうと思ふ。我々淺薄な知識で知つて居る限りでも、支那人と云ふのは通貨に關しての非常なエキスパートでもある。それと通貨問題で輸贏を争ふと云ふやうなことではどうも歩が悪い。向ふのホームグラウンドで、さうして得意の手の中で以て勝負をしようと云ふことは、我々として非常な不利益な戰爭をやることになる。そんな方面から

考へまして、出来るだけ通貨と云ふ問題に觸れない方法を取る。それには物資を中心にした經濟政策を立てると云ふことが、日本として必要であらうと思ふ。さう云ふ方針の下で出来るだけ日本として早く中支に於て、物資中心の統制經濟と云ふやうなものを作る方が宜くはないか、と云ふことを申上げたことがあつた。其の後段々暮して見まして通貨の問題、乃至は統制經濟の問題と云ふやうなものも、さう云ふやうな方針で別段やれぬことでないやうに、まあ私には見えたのであります。

それから間もなく思想問題と云ふやうな方面で、三民主義の修正であるとか、色々なことを言ふ學者もあり、政治家もお出でになつて、我々も其の話を聞かされたのであります。日本から皇道主義乃至日本主義の精神を持つて行つて支那に普及させようとか、其の精神を以て宣撫をやるとか云ふ様な考へ方を探る人が、非常に多い様に見受けました。それについて昨年の正月頃でございましたか、或る方がお見えになりました。一體それはどうしたら宜いかと云ふ問題を出されましたので、思想とか、通貨とか云ふやうなものは、先づ大體同じやうな性質のものとして考へて見る必要がある。しかも其の二つのものは可成り密接な關係を持つて居るので、出来るだけ、兩

者とも地域別に考へて對策をきめて戴く方が宜しいと思ふ。滿洲でやつたことを支那へ持つて來る。或は北支でやつたことを中支へまた押附けると云ふやうなやり方なしに、北支は北支、滿洲は滿洲、中支那は中支那と云ふやうに分けることを、思想についても、また通貨についても考へて戴きたい。圓ブロックと云ふやうなことで一纏めにしないで、幾つかそれぞれの違つた地域に分けて、それらを纏めてブロックを考へることにするのが穩當であらう。いはゆる協同體とか、新秩序とか云ふことを主張する人々にもその要領で考へて貰ふ方が妥當であらうと云ふ風に、申上げたことがあるのであります。

これについて私は今日まで、特別それらの考へを變更する必要を認めないのであります。それは其の後、進歩しなかつたと云ふことの證據でもありますが、誰が見てもさうより他に見えない筈の事態ではないか、支那の實情と云ふものを見たならば、どなたでもさう見るのが本當ぢやないかと私には思はれる極く簡単な話で、是は研究の結果でも何でもありません。行つて見れば直ぐさう云ふ風な感じを受ける事柄ではないかと思ふのであります。それは豫め別な考へ、先入主を以て何か事をしてやらう、日本を中心にして圓ブロックを拵へてやらうとか、或は日本の思想を以て



この全體を抑へ附けてしまふと云ふやうな精神を以て臨むと云ふ場合にだけ、別なことが出來て來るのぢやなからうか。我々が日本のやつて居りますことを單に眺めるばかりでなしに、及ばずながら心配して居りまして、非常に感じますことは、日本を中心にして圓ブロックを作らうとするために滿洲にしる、北支或は中支那と云ふものが、その性質上の差を失つて、全部程度の差に變つてしまふ。それぞれの地域がもつ經濟上の性質の相違でなくなつて、それが程度上の差に變ると云ふことは、是は日本中心の結果であらうと思ふのであります。日本から滿洲に品物を出すとか、或は北支、或は中支那に品物を送ると云ふやうな場合にも、北支の事情、中支那の事情と云ふものが、之を受附けるか、受附けないか、と云ふことを考へることによつて、そこではじめてよく性質上の差が見出されて來る。詰り支那經濟の中に於ける、各地域の特質と云ふものが物を言つて來る。支那經濟の性状そのものが何をすべきかを我々に對して教へるわけであります。ところが日本から十億なら十億の品物を出す。何處へ幾らやらうといふ場合に、たとへば滿洲に半分、残りの半分は北支、また其の半分を中支にやらうと云ふやうなことで、結局、日本を中心にして考へる度が強ければ強い程、支那の經濟の特色が問題ではなくなつて、日本に對する關係

の程度上の差に變つてしまふのであります。

斯う云ふやうな日本の建前を中心としまして、圓ブロックを結成すると云ふことは、一方では支那經濟に於ける夫々の地域的な性格と云ふ様なもののもつ趣といふものが全く失くなりました、非常に簡單に仕事が付く。斯う云ふやうな方針を前以て持つて居りまして、それによつて仕事を進めて行かうとすると、支那の經濟について直ぐ誰でも感じなければならぬ特色をも無視すると云ふ非常に大膽でもあり、亂暴でもあり、又無謀でもあるやうなことが平氣で出來るやうになるのであらうと思ふのであります。支那事變が始まりましたから相當の年月の間、我々のやつて居りましたことで、若し其の間に結果の宜いことがあつたとすれば、日本を中心にしないうで、日本をも一つの部分として考へたやうな、全體の考へで行つた場合であつて、日本を中心にして落著かうと云ふやうに、程度の差で片付けましたものは、どうも餘り芳しくないやうに見えるのであります。そこに澤山の問題があらうと思はれますが、差當り私共の注目を要する點としまして、第一に通貨の問題を取上げて考へて見ることに致します。

## 二

只今のところ、御承知のやうに、中支那に於て軍票の値打、いはゆる軍票相場と云ふやうなもの、この頃はよく新聞に出て居るやうであります。昨今六十三圓とか云ふやうなことで、この間中は五十八、九圓までも行つたやうであります。以前には確か新聞に出してはいけないことになつて居つたんじゃないかと思ふのでありますが、兎に角この頃は新聞で見ましても非常にレートが宜い。このレートの宜いことについて、どう云ふ風に考へたら宜いのかと云ふ事が、今日我々に取つて過去二年間、軍票の問題として考へた重要問題のエッセンスを考へさせられるやうな氣が致します。一昨年、十三年の秋頃でございましたか、軍票を通貨にしようとか云ふ話が始まりました。即ち徵發證券と云ふ範圍を脱しまして、軍票を通貨にすると云ふ話が關係當局の間に出たのであります。其の時に、我々特に責任のある地位にある譯ぢやございませぬから、唯どう思ふかと云ふ様なことが話し合ひの間に出た事がある。その時に我々はどうも北支の聯銀券の例もありますので、軍票と云ふやうなものを又此處で出して行くと云ふことになる場合に、それを通

貨にするために、若し不用意なやり方をしたならば、そこから色々な破綻が起きて来る。さうして日本として非常に澤山な軍票を背負はなくなりやなくなる。日本の通貨自身が軍票に變る處さへあるやうな感じが致したので、餘程用心して戴く必要があると思つて居つた。そこで軍票と云ふやうなものが、軍の必要から軍票が出て來ると云ふ範圍に止まつて居ないで、一般産業の必要であるとか、或は中支に於ける經濟工作の各方面の必要に應ずるやうに軍票を使ふと云ふことになる、詰り軍票通貨（この言葉はちよつと形容上の矛盾でもあります）にしようとか云ふことにすれば其の中心は軍といふ事ではなく、軍もそれについて關與されることは必要であるけれども、恰も日本内地で大藏省と云ふものが、一般に通貨乃至豫算の關係を處理して居るやうに、中支那に於ても矢張り大藏省が中心でやるのが、本來ぢやなからうか。其の意味で軍票と云ふ名前を續けると云ふことについても、其の當時は早晩さうでなくなるものと深く期待して居つたのであります。中支那の圓と云ふものを考へるやうな方向に問題が考へられて居つたわけでありませぬ。軍票と云ふ名前のために軍の金であると云ふやうな印象を軍自身も持つたり、或は一般の間も持つと云ふことは、決して結構なことではないやうに思はれましたので、出來るだけさうで

なくして戴く必要があると云ふことを度々私共は申上げて居つた。そこで昨年すなはち十四年の秋頃から軍票一色にしようと思ふことになりましたが、ただ軍票々々と言つて居りましたが、あれは御承知のやうに、段々の變化があつて甲、乙、丙、丁、戊、今は戊種でございしますが、前には「大日本帝國政府軍用手票」と書いてあつたのを、其の「軍用手票」を取つてしまひ、「大日本帝國政府」だけにしてある。さうして今度は記號が入つて居ると云ふ點が違ふのであります。この「軍用手票」の四字を取去つた後のものは、ちよつと聞いたので確かめたわけではありませんが、あれは支拂手票と云ふものださうであります。併し其の運用の方法と云ふやうなものについては、當然に一つの運用委員會と云ふやうなものを作つて戴きまして、大藏省が中心になつてやる筈に承つて居りました。其の仕組が今日のところ、まだ實現されて居らないやうで、依然として一般にそれが軍の金でもあるかのやうな感じを與へることになつて居るのであります。

かうした變化の間に華興商業銀行が華興券と云ふものを出すことになつたのは御承知の通りで、十三年の五月頃から話が始まりまして、約一箇年の間、案の上での様々な模様替へをやつた擧句に、やつと十四年の五月頃になつてから開業致しました。華興商業銀行と云ふものが出來て、紙

幣を發行すると云ふ段取になつて、只今までのところ五百萬圓位と云ふことに發表されて居りますが、是は特に殖える傾向を示して居らない。之が軍票との關係を全然問題の外に置いて居ると云ふために、色々な點で伸びるべき筈の部分も伸びなかつたり致しまして、維新政府さへ或る時期からは、この華興券を事實上使ふことを、喜ばなくなつたとかいふことであります。

日本側の通貨の事情は、只今申上げたやうな關係であります。全體と致しまして、軍票を通貨にするとか、或は華興商業銀行で銀行券を出すとか云ふ場合に、一つ明かな事實は法幣の流通と云ふことに便乗して居つたといふことであります。法幣撲滅の建前を大いに日本あたりでも主張された方が多かつたのであります。其の方法として使はれて居つた軍票の發行とか、或は華興券の流通とか云ふ問題は、全部法幣の流通と云ふことを前提にしまして、それに便乗して、その滅亡を望んで居ると云ふやうな、非常に不思議なやり方を取つて居たのであります。今日においてそれが全くなくなつたか、どうかと云ふことについても、疑問があることは勿論であります。是は何も軍票や華興券の場合ばかりではありませんので、例へば頻りに言はれます、パーターステムと云ふやうな話にしましても、現在、中支那と北支、或は滿洲、朝鮮、臺灣、さう云

ふやうな地方相互の間にバーターシステムと稱して、色々業者を面喰はせるやうな注文を出すことが随分あるのでありますが、是も流通經濟で充分訓練されて、其の手腕條件をそなへた營業者を動員しまして、それらの各個の業者の負擔と資金の不自由とに依つて始めて成立して居るバーターシステムであります。流通經濟はいかぬと言つて居りながら、その流通經濟に便乗して辛うじて出来るやうなバーターを考へて居るので、その程度の頭しか働いて居らぬし、その位しか仕事もやつて居らないのであります。愈々バーターが折合はぬ時に、外貨爲替を買つて埋合せをやり兼ねいやうな甚だ便利なバーターである。私は書生でございますから、勝手なことを言ふのを勘辨して戴いて居るのでありますが、少くともバーターとバーターシステムと云ふものとの區別を知らないやうなやり方を採つて居る。それで、バーターでやれ、バーター制をとれと言つて居りますが、經濟と云ふものはすべてバーターなんで、今更別にバーターでないものを考へると云ふやうなことは、經濟の趣旨から言つてあり得ることではない。ただバーターといふものがいかにも不便であるためにシステムが出来たので、そこに流通經濟が生れ出たと云ふことは、是は如何に流行らなくなつた經濟學でも、其の點だけは間違ひなく書いてあるのであります。システム

の方がいはゆる流通經濟なので、流通經濟の目的とする所、内容となるものはバーターであること云ふことは、今日と雖も依然として變らない筈です。それにも拘らず流通經濟、自由主義の流通經濟はいけないから、バーターで行くんだと云ふやうなことを言つて、たとへば三井物産は中支那から北支へ小麥を持つて行くと云ふ過去の實績がある。石炭を北支から中支へ持つて來ると云ふ實績がある。それで一つバーターをやつて呉れ。是は明瞭に流通經濟の範圍でそのテクニクを使つて居る。ただ資金の土で不自由をして居るだけはいはゆるバーターで、今日行はれて居るバーターなどと云ふものは、みな殆んど從來の流通經濟の上に便乗して、其の上でヂタバタやつて居ると云ふやうな程度のものであります。是もさつき言ふ法幣に便乗した通貨工作、流通經濟に便乗したバーターシステム、昨今新體制とか何とか言つて居るやうな場合に於ても、すべてさう云ふ點が多分にあるのぢやなからうか。

斯う云ふ風にすべて便乗主義でありまして、自分で新しいものを作ると云ふ様なことは餘り考へもしないし、希望もしない。何かあるものを不自由にしながら、それらの悪口を言つて居るとか、貶して居るとか、撲滅せんとするとか云ふやうなことが非常に多い。さうして段々自分も萎

縮する。足許の砂を段々削つて居るやうな状態が屢々見受けられるのであります。

## 三

この通貨工作に續いて、第二に統制問題であります。一昨年、一つ日本なりの組織ある經濟を中支那で作つて戴きたいと云ふことを希望致しましたら、君はどうも中支那の實情を知らぬ。此處はフリーマーケットで容易に統制なんと云ふものは出来る所でないといふお話を其の道の玄人から伺つたのであります。其の方の言はれることも能く解りますが、併し日本なりに一つ統制を作ると云ふことは、是は決して不可能でもなければ、やらなくてよいことではない。日本内地が段々物動計畫其の他によつて引締められて参りまして、圓ブロック内の輸出入關係と云ふものが窮屈になつて参ります時に、中支那方面で何の機制もないと云ふことになる、是は非常な手違ひにもなるのぢやなからうか、さう云ふ意味で出来るだけ我々も中支那に日本の現地經濟と云ふやうなもの一つ作つたらどうかと云ふ事を、方々に機會がある毎に申上げて居つたのであります。併しなかなかそこまでは手が伸びませぬので、昨年の暮あたりまでは一向にさう云ふやう

なことが捗々しく行かなかつたのであります。

あちらへ参りました當時見て居りますと、是は實に何の組織もない。上海にある日本人の商賣と云ふものに全く組織がないと云ふ感じを痛切に致しました。多少同業組合と云ふやうなものがありました。組合自身が動くといふやうなことは殆んどなかつたのであります。大きな商賣をして居る筋は、組合の力を以てどうすると云ふ必要はなく、自分自身の力でそれぞれやれる。小さなものはまた組合を作つて金を掛けるだけの資力もない。それよりはまあ自分で黙つて何かやつて居た方が却つて便利だ。殊に素人商賣が非常に盛んで、戦争後でもあり、戦争の最中でもありますので、賣れさへすればどんな仕入れの仕方をして宜しいと云ふので、素人商賣が非常に跋扈して居る。其のために玄人仲間が集つて組合を作つてどうすると云ふこともなかなか思ふやうに出来ないといふやうな状態であつた。

十三年の秋、丁度漢口が陥落致しました頃から、營業者の方におすすめて、組合を作ると云ふことをもう少し熱心になつて戴きたい。さうして組合を中心にして上海の日本の商業、或は産業と云ふものを合理化すると云ふ方法を、取られたならばどうかと云ふことで、出来るだけ組合

を結成し、さうして組織あるものにするために盡力致しました。其の結果、それは尤もな話だといふので、皆さんもそれに賛成して下さいました。昨年春、従來の商工會議所の組織を改めて公法人に致しまして、議員や、役員を選ぶと云ふ時には、全部組合の代表者と云ふものだけで組織する、業種別代表の會議所と云ふものによつたと云ふことを申上げた。會議所なんかは選舉を營むことは殆んど意味をなさないことで、昔はさう云ふ必要があつたかも知れないが、今日はその必要はないものと私は考へて居つたので、選舉なしと云ふ方針にし、其の代り選定は組合の内部の仕事にして戴くと云ふことに決めました。それぞれの組合に割當を作つてあなたの方から何人と云ふ風に議員の數を作りまして、表向の規則とは違ひまして、全部實質的に業種代表で組織する會議所と云ふものを作ることをお願いしましたところ、それは大變宜しいと云ふことで、皆さんさうやつて下さつて居るのであります。

其の後段々に組合と云ふものの強化が行はれまして、もう八十以上の組合が出来、其の後に又例の軍票交換用物資配給組合と云ふやうなものが出来ましたり、或は物動物資の配給組合と云ふ様なものが出来ましたし、現在百位に上つて居りませう。ところが何時の間にか日本の方が輸出

統制がやかましくなりましたから、幾分官廳に對する陳情組合といつたやうなものに變つて参り、其の中に或る種の商品について商品別輸出入組合が強く要求されて参りますと、もう組合が人間の集りとか、營業者の團體とか云ふやうな恰好ではなくなり、物の出入りのための一つの行政機關のやうな意味合、詰り日本の昨今の組合と同じやうな傾向が段々に濃厚になつて参りました。もう組合と云ふものが、二年餘り前におすすめて結成した組合とは餘程異つたものになつて來て居るので、之をもう一遍模様替へをすると云ふ必要があるやうに考へられるのであります。斯う云ふ風に組合の考へと云ふものが、變化して参りましたことが、取も直さず日本の戦争中に於ける經濟機構に對する思想乃至政策の變化を現はして居るものと見られるのであります。先達も日本の東亞輸出組合に對應しまして、現地に輸入組合を作ることになりましたが、その際例へば、官廳あたりでは營業許可を持つて居ない人間が何人かその組合員の中に入つて居るやうだが、それでは組合として許可する譯には行かないと云ふことを申します。其の時、役所の方に申したのであります。大體營業許可を持つて居る組合員を以て組織した組合と云ふやうなものが、今必要になつて居る組合ではないので、組合員などと云ふものが居なくても、組合と云ふものを考

へなければならぬやうな時節になつて居る。組合員が集つて組合を作るのぢやなくて、組合があつて其の中に入つたものが組合員になる、斯う云ふやうに、考へ方の上で大きな變化が必要な時節なのであります。

又商品別組合と云ふものが二十四ありまして、其の二十四の組合が皆創立總會をやり、認可を得、それらが、集つて聯合會を作ると云ふやうに計畫はしても、なかなか手順が運ばなかつたのであります。其の時にも申上げたのであります。聯合會と云ふものに對する解釋が間違つて居る。個々の組合が出来ないでも既に聯合會と云ふものは可能なので、先づ聯合會があつて、それから各個の組合がそれにくつつくやうに、その傘下に集つて、商品別組合と云ふものが出来る筈のものだから、各個の組合の出来るのを待つて聯合會を作り、それに許可を與へようと思ふことを考へて居るのは、今日流行の如くに排斥して居る所の自由主義思想とやら言ふもの考へ方を脱却して居らぬ。經濟の場合には随分惡口を言ふけれども、法律論になるとどうも非常に遅れた考へを取つて居るやうに、私には思はれるが、いはゆる新體制の理論とか、或は全體主義とか云ふ様なことは、さう云ふ所を考へ直す點に問題がある。例へば商品別組合と稱して、ガ

ラス製品の組合と云ふものが一つある。或は玩具の輸入組合がある。それらの輸入組合と云ふものは單獨に働くことは出来ないで、豫め聯合會を組織して聯合會の承認を経たものだけを輸入出来るやうな、機能の上で初めから全體の制約を受けて居る筈なんで、従つてたつた一つの組合が出来ただけでも、既に聯合會と云ふものが具體化されて居ると云ふ風にも考へなければならぬ。經濟上においては熱心に排斥して居つた自由主義か何か知らぬが、個別主義の考へ方を、法律理論では依然平氣で採用して居ると云ふことはをかしい。全體主義でなくちやいかぬとか、新體制理論でなくちやならぬと云ふことを頻りに言つて置きながら、法理の方は一向さうでなく考へてゐると云ふことは、一體官廳は何を考へて居るのか。なかなか従前の流儀を捨てませぬ。君の言ふやうに考へると簡單でもあるし、仕事も樂だと云ふ話ですから、簡單でもあると云ふのは駄目だといふことかと、尋ねますとさうでもないと思ふお話でした。

今日のやうに統制經濟が発達致しまして、官吏が廣汎な且つ多量の仕事をやることになる、官吏の能力と云ふものは遺憾なく人民の前に曝け出される。窓口を隔てて偶に交渉を持つてゐた今までのやうな官吏であれば、馬鹿か利巧かも能く分らないが、朝から晩まで人民と顔を合はせ、

この書類の出し方が悪いとか、書方がよくないとか云ふやうなことの交渉を頻繁にやることになり、官吏の能力と云ふものは民間の人にハッキリ分る。初めこそ書類の約束がありますから、一、二遍間違つて人民がヘマのやうに見えるが、それを卒業してしまふと、能力もあり、仕事の経験もある、どんどん先へ行つてしまふ。役人はまあ轉任と云ふやうなこともあるが、大體に於て其の能力の程を疑はれて来る。だからとかく確信を失ふやうになつて、昨今ではこの統制經濟と云ふものについて甚だ自信を持ってなくなつて、見物をして居るのではないか、早く新體制とか、何とか云ふやうなことで變つて呉ればよいと思つて居るんぢやないか、とさへ思はれるのであります。

さう云ふやうなことで、日本の統制經濟下に於ける官吏の責任と云ふものは非常に重大化して居る。今後官吏の教育と云ふものを餘程よくやりませぬと、仕事が益々澁滞する。出来るならば私は日本の官吏と云ふものの數をうんと減らして、それらの連中を、民間の生産部門に働かせる事にしたらよからう。何にも知らないでゐながら監督者のやうな顔をして居ると云ふことは以ての他でありますから、ああ云ふ昔の武士階級的な存在を生産部門に入れて、働かせる事にした方

がよい。其の代りに民間の事業會社は國家のために、その産業を預つて居るのだ、と云ふ確信を以て經營に努める。さうして官吏と云ふやうな者は出来るだけ有能者を採用して、名譽と生活の安定とを與へ、全力を擧げて國家のために奉仕せしむると云ふやり方にしなければならぬ。丁度徳川時代に於て武士と云ふものが殖えて、消費階級が多くなつたから、之を生産部門に振向けると云ふことが、明治維新を必要とした經濟上の理由だと云ふことを考へて居る人もあるのであります。まことに尤もだと思ひます。今日官吏が非常に多くなつて、其の數の増加は停止する所を知らない。政府の他に又似たやうな、龐大な組織が二つも、三つも出来ると云ふやうになりましては、消費階級ばかり殖えてどうにもならなくなる。逆に之等を皆生産部門に收容して働かせると云ふ事をした方が、生産力擴充のためによいのぢやないかと思ふのであります。私が役所の或る方から調査官になる事のお勧めを受けた際に、私は調査官はウンと減らして終ふ方がよいと思つて居つた矢先でありましたから、自分で殖すことの手傳ひをすると云ふことは御免蒙りたいのみならず、さう云ふ考へ方が今日の官廳と云ふものの能率を如何に悪くしてゐるかと思ふことの證明であると申上げた。それはたとへば商工會議所と云ふもの全體を調査官にするやうな氣持



にならないで、私一人を調査官にして仕事をやらせようと思ふことは、是は根本に於て間違ひだ。いかに商工省で有能であり、外務省で有能であつても、その一人だけが連絡部あたりへまはされては、訓練された部下が居ないと云ふことのために何も出来なくなる。さう云ふ風に皆有能な人をバラバラにシヨウインドーへ並べて飾るやうになつた。それらの人は皆本省へ歸つて出世する都合もありませうから、さう連絡部の仕事など熱心になれぬといふこともあり得るでせう。餘り熱心になると、あれは上海に丁度向いて居ると云ふことで、他に向けてくれなくなる虞もあります。そんなことで現地官廳と云ふものが一向パツとしない。商工會議所であるとか、民間の團體と云ふものを其の代りとして活用しようと思ふ考へ方にならない限り、日本の官廳と云ふものはよくならぬではないか。

それ故、出来るだけ官僚は數を少くしまして、物の分る有能な人だけを官吏に致します。有能でもない人を生産方面に寄越されるのも困りますけれども、まあ鍛へやうによつては、將來よくなるだらうと思ひます。さう云ふ人を生産事業に入れまして、現に是だけ大きな消費をやつて居る際でもありますから、その力を生産力擴充に振向けて行く。さう致しましたならば、丁度監督

者と被監督者と云ふ事で、會社側も官廳側も無用の人を澤山に養つて居ると云ふ、其の弊を一舉に除くことが出来るのぢやなからうか、中支那振興會社を監督するために興亞院に幾人かの調査官があつて、丁度それだけ二重に無駄をして居るといつたやうな、ああ云ふ仕組は一切止めて、仔會社を充實させる。仔會社が國家に對して直接責任を持ち、さうして極く僅かの監督官を以て國家が之を監督すると云ふ組織を作りましたならば、もつと簡単に仕事が運び、費用も節減出来るのぢやないかと思ふのであります。

今日各方面で話の行はれて居りますのは、どつちかと云ふと、機構の問題がやかましくて、運用の問題がお留守になつて居る。仕事を續けて行く上の能率をよくすることを考へないで、直ぐに機構問題を考へる。さうして絶えず色々と權限の關係であるとか、役割であるとか云ふやうな人の配置のことばかり議論して居る。例へば我々のところで輸入組合の聯合會を作ると云ふことになる、定款の作成と云ふやうなことに夢中になるが、其の定款の中には運用のことは書いてありませぬ。皆役員の組織であるとか、或は加入金がどうであるとか云ふやうな機構の問題だけが書いてある。運用の問題を決めようとする考へ方でありませぬ。こんなことをやつて居ります

と、この案が出来るまでは、一向に仕事が出来ない。それだけ澁滞して居る。是は私が上海で見て居りまして度々感じたことではありますが、或は差障りがあるかも知れませぬが、國策會社が出来ます時には、先程申しました華興商業銀行でも東亞海運にしましても案が言ひ出されましてから、其の案について長い間大勢の人の間で論議がある。さうして遞信省案、大藏省案、軍部案と云ふものが澤山出て参ります。それを持廻つて半年、一年を暮すと云ふのが、大體國策會社誕生の経緯と言つたやうなものであります。さうして段々に長を探つたと思つたり、或は長を捨てたり、色々なことをしまして、皆の兼合を考へた學句、何だか得體の知れない案が出来まして、案を作つた人はそれで出来たと言つて家へ歸つて晝寝をして居る。後は誰かそれに當嵌るやうな重役を探してやらせると云ふのでありますから、重役になる人も迷惑なわけです。例へば船のことならば、揚子江のことに明るい人に相當の資力と權限とを授けまして、さうして半年なり、一年なりの間をエキスペリメントとしてやらせる。すべて思ふ通りにやつて御覽なさいと云ふことで、一年なり、半年を経過して、其の人のやつた結果によつてこの陣容を整へ、規則を決めると云ふやうなことに致しましたならば、絶えず働いて、働いた其の實驗の結果を段々合理化すると云ふ

見込が出て来る筈であります。さうでなしに、今までやつて居ることは、華興商業銀行の話でも、十三年の五月頃に中央に案を持つて来たさうであります。それから四遍か、五遍か知らないが、しよつちゆう引繰返へつて、やつと出来たと云ふ際には、もう出来たつて、出来なくなつて、どつちでもよい様な時期になつて、面白くもかしくもない。ああ出来たのかと云ふ話になつてしまふ。いはゆる國策會社については、我々この感じを深くして居るのですが、今後日本のやりませ經濟施策の上では、是非ああ云ふ癖はやめていただきたい。どうかしてさう云ふことのないやうな統制をやつて戴きたい。「統制」と云ふことになる。皆各個人がサポーターヂュを始める。是は意識的ぢやないのでありますが、どう云ふことになるのか分らぬから、暫くちよつと見合はして置かう。暫く見た上でやらう、と云ふやうな傾向が多分に出て参りますから、能率が非常に下る、一時休業状態のやうになる。それから暫く経ちまして、段々仕事が進み出す。其の時には旨く行くこともありますが、旨く行かないことも随分あります。

すべて計畫は仙人掌のやうに、何處から芽が出て伸びて行くか分らないので、後から見ると恰好もつかないやうに、横つちよから伸びて行つたやうな場合が非常に多い。例へばこの前鐵道荷

物の取扱店の組合と云ふものがありました。發會式があるから是非出て呉れと云ふので参りました。それは華中鐵道の荷物の取扱を専門にする運送店の組合でありまして、それが第一回の會合をやると云ふことになつた時に、役所の方から、今度小運送の會社を作ることになるのだと云ふ話を發表致しました。それでそこに出て來られた人たちは、是から一つ小さな運送店が集つて組合を作つて、大いに華中鐵道と協力して仕事をやらうと思つて集つて來た途端に、是は内々の話であるけれども皆さんに知らせると云ふので、其の人達の營業がなくなる相談を始めたのであります。それで出てゐた人々はびつくりして、一體是はどう云ふ事かと云ふことになりました。其の運送業をやつて居る方々の話によると、自分達は元來クリークの運送をやつて居つたのが大部分で、其の中に内河汽船と云ふ國策會社の一つの仔會社が出來ました。で今度は内河汽船の方で皆營業をやることになつたから、お前等は廢めたらよからうと云ふ話になつて、仕方なく陸へ上つたのださうです。それからトラックをもつて馳け廻つてゐると、鐵道會社が出來たから、それと相談をして運送店を始めた。折角組合までも拵へてやらうと思つたら、今度小運送の會社が出來るから、お前等は引込んで居れと云ふ。しよつちゆう模様替へがあつて、我々が路頭に迷ふと

云ふことも困るには困るが、一體斯う云ふことでよいのでせうか、あなたは商工會議所の人だから一つ意見を述べて呉れと云ふ話でありました。どうもクリークから段々斯う上つて來た工合を考へて見ますと、日本の經濟政策と云ふものに對する非常なアイロニーを感ずるのであります。そこに我々として考へ直さなければならぬ問題が多分にある。其の時期なり、方法なり、またさう云ふ人々の轉業問題など、非常に考へさせられるのであります。

## 四

今日まで段々に統制を強化し、殊に資金をやかましく統制致しました結果、殆んど各種の産業が萎縮して参りました。其の上に歐洲戰爭の影響もありますので、一層がっかりしたやうな、上海としては勢ひのない状態になつて居ります。其の上に最近ビルマルルートであるとか、或は佛印ルートであるとか、さう云ふものが封鎖されました。また寧波の方のルートも封鎖されたと云ふやうなことで、いはゆる援蔣ルートを鎖した擧句、上海だけが殘されて居る唯一の援蔣ルートで、そこから色々な物資が重慶の方まで入つて行く、是はどうしても止めるべきではないかといふこ

とになつた。例へば日本の紡績會社がせつせと生産して綿絲布を賣つて居る。其の賣つたものが廻り廻つて重慶へ送られて、重慶側の兵隊の軍服になつたりする。斯うなると紡績會社が一つの援蔣行爲をやつて居ることになるのぢやないか、一生懸命に金を苦面しては印度棉を輸入して、其の製品を重慶側に賣つて喜んで居てはならぬ。斯う云ふ困つた状態は早く止めなくちやならぬ。斯う云ふ話になつて、援蔣ルート遮斷政策の一つの現れとしまして、紡績會社なども極端な操業短縮を今日やつて居るのであります。其のために過去一月以上、もう二月になりますが、毎日多くの職工を減にして、船へ積んで國元へ持つて行つて來るとかいふことであります。

其の他の商賣にしましても、上海の品物を持出す、或は此方から持つて行くと云ふものも、すべてさう云ふ封鎖方針に合ふやうにと云ふことで、出來るだけ之を嚴重に查べまして、奥地へ持ち込まれたものが非占領地區に行くことのないやうにする。それから占領地區以外に出來る品物を買付け、徒らに敵方を潤す結果にならないやうにすること、斯う云ふ方針を立てまして、著々其の強化をはかることに致して居りますために、この方針に忠實な日本人の商賣は非常に萎縮せざるを得ぬことになつてゐます。第三國向輸出などに致しましても、敵地經濟を繁昌させると云

ふことはいかぬと云ふことから、第三國向輸出も差控へると云ふことになりましたので、サツバリ仕事がなくなつて不況に陥つて居るわけでありませう。

然し支那人や、外國人の方は必ずしも日本側の方針に従はうとしない。協力しろと言はれても、見つかからない限りどう云ふ方法でも取ると云ふのが、彼らの建前でありますから、日本人がやらなくなつた其の途端に、たとへば石鹼を五千箱も某所に陸揚したとか、何とか云ふことで、甚だ忌々しい實例が澤山にあるのであります。さう云ふ取締は御承知のやうになかなか徹底的にはやり兼ねる状態にあります。よく我々が見ます通りに、支那では非常に大量に扱はれる商品と云ふものが、きはめて小さな分量で動いて行く。上海の人間が毎日食べて居る米は、二つの袋をぶら下げた自轉車の群が運んで來るのであります。三千臺から、四千臺の自轉車が毎日のやうに出入りして居ると傳へられて居ります。米のストックは大凡二箇月乃至三箇月足らずを支へるだけの分量であります。これはずつと事變前からさうなんださうで、月々其の月に入つて來るものを食べて行くと云ふやうな恰好になつて居つて、其の點は事變後でも同じなのであります。其の自轉車隊が運んで來る歸りには、何か綿布のやうなものを持つて行くとか、砂糖を持つて行くとか、

見つからない様に非常な苦勞をして持つて行く様であります。鹽なども非常にやかましく制限して、其の出入りを止めましても、實に意外な方法を以てあつち、こつちと持つて歩く。先達も聞いた話で、是は非常に汚ない話でありますが、人糞の桶の中に鹽を罐に詰めまして、それに錘を付けて下へ沈めて運んで行つたと云ふやうなことで、斯う云ふのはどうしても探しやうがないのであります。後から聞けば成る程さう云ふ手もあるかと云ふことが分りますが、思ひ付きから言つても實に意外なのが現れます。さうして前線を突破して行くわけでありまして、兵隊さんこの監視にはとても草臥れることと想像されます。

どうかしてさう云ふ苦勞のない經濟封鎖の方法が、ありはしないかと云ふことを我々考へるのであります。どつちかと云ふと、あの出入りを止めると云ふことはなかなか容易ぢやありません。日本側としては取れるものはどんどん取る。やるものは成るべく制限するのが建前でありませうが、いづれにせよ潔癖にやらうとすれば骨ばかり折れて役に立たないのぢやないかと思はれます。そこでむしろ經濟封鎖は、支那の民族資本と云ふものを困らせまして、是ぢやどうもやり切れないから、重慶の方でも一つ考へ直して呉れないかとか、日本側と協力しようとか云ふ風にさせる

のが、その目的に適ふのぢやなからうかと思ふのであります。今外國爲替も買ふことが出来なくなりまして、上海で金を持つてゐる連中は非常に困つて居るやうに聞のであります。日本でも最近では民族資本の誘導なんて云ふことは、是はどうもよくないから止めようと思ふ話になつて居るやうで、誠に結構な話であります。出来るだけ彼らを困らせまして、量見を入れ替へさせる。それから日本の方に金を持つて來るとか、日本の公債でも買はうと云ふ良い量見を起すやうになつたら、精々民族資本を可愛がつてやつたらよいのぢやないか。それをただ日支合辨でやらうと云ふやうなことになる、日本人同志でもさう知らない者が集つて合辨なんて言つたつて、危くて出来ないわけでありまして。況んや氣心も知れないやうな相手か、ちよつと合辨にしようとか云ふことになつても、結局、彼等としては嫌がるのは決つて居ります。まだまだそんな時節ではありません。

兎に角戦争であると云ふことを忘れてはならぬ、支那人の抗日意識と云ふものは甘く見てはならぬと思ひますが、むしろ日本人としてはもつと自信を持つて、平氣な顔をして支那で仕事をし、横行闊歩すると云ふやうな氣分になりますと、却つて支那人の方が親しみを寄せて來るのではな

からうか。

私は近衛聲明の出した時に、或る人から、「今日の聲明をあなたはどうか云ふやうに考へるか」と云ふ話でありましたから、「非常に結構な聲明だと思ひます」と言つた。そしたら、「領土も要らぬ、賠償金も要らぬと云ふのは、どうも適當でないやうに思ふが、あなたは賛成か」と云ふから「私は賛成なんだ、恐らく近衛聲明と云ふものは、日本國民が支那で暮すと云ふことを、自分の家で暮すやうに心掛けるのだと云ふ事を聲明したものだらう。自分の家と思つて暮すと云ふことになると賠償金を取るとか、領土を取るとか云ふ問題は先づなくて済む譯で、如何にも先祖代代居るべき筈の所にゐるやうな顔をして、つまり大きな顔をして、日本人が自分の家のやうにやつて居ると、どうもちよつと、あいつら歸りさうもないし、親の代から居るやうな顔をして居るから、是は一緒にやらないと祖先に對して濟まないだらうと云ふやうに支那人も自然考へるかも知れぬ。まあさう云ふことを近衛聲明と云ふものが言ひ現して居るので、それがつまり日本國民に對して實踐道徳の上で日常の指針を與へることになるから結構だ」と申しました。さう云ふ趣旨であつたか、どうか私は存じませぬが、少くもさうとでも考へなければ、どうもやり切れぬや

うな氣も致します。又それなら支那人も、成る程どうもこの連中はまるで危ないなんて氣が附かないやうな顔をして暮してゐるやうだから、合辨もしようとか何とか云ふことにも、自然なつて行くのぢやなからうかと思ふのであります。大體さう云ふやうなことで、東亞協同體とか、或は圓ブロックの構成であるとか、色々な問題がございますが、要するに日本人はもつと不愛想にやつた方がよい。支那人と仲良くならうなどといふ中腰の量見は一切止めて、勝手にしやがれと云ふやうな氣持で、こつちはこつちで、前から居た所に居るんだと云ふ量見になつて圖太く構へることに致しましたなら、恐らくもつともつと事態が安定し、好轉するのぢやなからうか、日本人自身も安心出来るのぢやなからうかと思ふのであります。

昨今日本での色々な變化について、絶えず上海あたりでも話が出、度々尋ねられるのであります。が、「經濟新體制と云ふことで、どう云ふやうな變革をやるか聞かして呉れ」と云ふ。丁度町醫者を開業したやうなもので、専門は違つても何でもやつて來た患者に一應何とか挨拶をしなればならぬやうな立場にありますので、矢張り其場々で勝手なことを申して居るのであります。が、ただ私の感じますことは、日本の政治は非常に遅れて居る。日本の經濟は事變の必要、實際

の必要からどんどん變つて、是程の變革をやつて居るに拘らず、政治方面の仕事が一向に捗々しく行つて居らぬ。經濟の變革に追附くだけの政治上の模様替へをして行きたいと云ふことが、今日新體制を必要としたのぢやなからうか。追附いた擧句に、其の勢ひを以て、或は經濟を引摺つて行くと云ふことが出来るやうになるかも知れませぬが、今日までの所は、非常に遅れた政治が經濟の變化にまで追附かうと云ふので、それだけでもなかなか容易な仕事でないのであります。政治の新體制が云々されてゐるから、つひうかうかと經濟の新體制もあるのだらうとか、何とか云ふやうな話を聞かされると、實は私には非常に意外な感じが致します。むしろもつともつと政治家が勉強致しまして、例へば百億の豫算を協賛するに當りまして、どうしたら百億の豫算を本當に日本の中で實行が出来るか、買物が出来るか、前線で軍事豫算が確かに日本の圓豫算と同じだけに使へるか、さう云ふやうな事に就いて政治家たちがどれだけの工夫をなさつたか。おそろく何にもして居なかつたから、そこに更めて新體制を必要とすることにもなつたのぢやなからうか。日本全體の政治として恐らくさう云ふ所に問題があるのぢやなからうか。其の點から考へますと、初めに申しました軍票の問題なども、自ら解決の方法がある。大體圓ブロックは軍事行動

によつて擴がつて行つたのでありまして、圓資本の關係で擴がつた譯ではなかつた。この擴大したものの裏附けをどうするかと云ふ事でやつて來たのが圓ブロックの經濟であります。實はやつて見て思つたよりも我々に力があると云ふことを痛感するのであります。同時に是からのやり方如何によつては、今までが本當の瘦我慢であつた、もうどうにもならぬと云ふことになるのかも知れませぬ。最近殊に日本全體として何かやつて居ることが焦り氣味が激しいやうな感じが致します。この六、七月頃ちよつとこつちへ參つて居ました時と較べて、この數箇月落着きが多少缺けてゐやせぬか。この焦り氣味と云ふことは事變處理の問題にも、今後の經濟對策の問題にも大いに關聯するので、これではなかなか支那で平氣な顔をして、此處を自分の家と思ふなんて云ふことはおろか、日本國自身にちよつとして居ることも出来ない。何かそわそわして居るやうで非常に殘念な感じがするのであります。どうかしてさうでなくしたいと思ひます。つい二、三日前も或る人が「君、上海に居て心細いとは思はぬか」と云ふ話でありましたが、「世界中心細い時節なんで、實は其の方で帳消しにして居ります」と云ふことを申上げて居つたのですが、日本内地に居てもそわそわして居るやうぢや、支那で千年も昔から居るやうな顔をするに云ふやうなこ

とは、なかなか餘程の手際がありませんと、出来ないのぢやないかと思つて、心配して居るやうな次第であります。

## 法幣小觀

昨今しきりに強化されつつある中央儲備銀行を中心とする通貨工作は、一面支那法幣の敵性差除であり、他面法幣經濟の安定措置である。この兩面をそなへるところに、問題のむづかしさがあり、法幣處理にあたる當局の苦心が存するものといはねばならぬ。さきに南京の國府當局が、その中央銀行をして新法幣を發行せしむるに當つて、しばらく舊法幣と等價流通をなさしむる措置をとつたのも、その間の消息をつたへてゐるのである。すなはち數年前に、詳しくいへば民國二十四年十一月三日公布の新貨幣法令に規定された各種法幣は、支那事變以後、抗日政權の支配下にあるものとなつてゐたので、これら舊法幣を是認することは、改組還都した國民政府としては出来ないところであるが、もしこれを急激に驅逐する措置をとるときは、支那經濟界の混亂を招き、民生安定上憂慮すべき結果となると考へて、しばらく等價流通といふ方策を



採用したのであつた。いひかへれば、法幣の政治貨幣たる半面は、一日も早く變革しなくてはならないが、他の半面たる經濟貨幣たる機能については、反日政權の逆用に供せられざる限りこれを出來得る限り保育して民生を安じたいといふのが、南京の國府の方針であり、これを支援してゐる日本側の方針でもあつた。

日本側乃至國府側の民生安定の方針を逆用して重慶としては、上海その他の經濟力を擄取することに努めてゐたが、軍事的に封鎖されてしまつた擧句、上海に集中された法幣經濟力をも放棄するの餘儀なきに至つた。そこで米英に乞ふて資産凍結をやつてもらつて、上海から爲替市場を奪取するの擧に出で、日本が上海經濟を利用することを阻止せむとした。それと共に自ら發行する法幣を一種の徵發證券に變ぜしめて、増發に増發を重ね、その結果、物價は昂騰し、法幣は慘落して民生の脅威は極度にたかまりつつある。今日では二百五十億元にも達するであらうと推定されてゐるが、事變前に比して十數倍の發行高である。人民の犠牲がいかにも大でも構はぬといふ重慶の捨て鉢的態度は、まさしく政治的破産者といふべく、最近の如くに中央儲備銀行をして新舊法幣の交換をすらはしめて、民生安定と支那經濟の保育をはかつてゐる措置と對比して見た

場合、支那事變の歸趨はおのづから明かなるものがあるといはねばならぬ。

新舊法幣の交換によつて、支那經濟が全面的に立ち直るものと即断してはならない。南京國民政府の支配地域は、日本側の援助によつて漸次擴大してゆくであらうが、少くも中國の更生といふことは、今後に残された大きな課題であつて、その政治的統一が促進されることによつてのみ、支那經濟の安定も見られるものといはねばならない。

今日の如く通貨不安がはげしい場合には、多少とも良貨と考へられる通貨はドシドシ退蔵されることにもなるであらうし、また物資で價値を保存しようと思つて心掛けることにもなるであらう。そしてたとへば上海といふやうな市場と奥地の經濟とは、しばらく遊離してしまふことも想像にかたくない。農民は隨所に自給自給の經濟を營むことになつて、物資の生産も減じ、その出廻りは極度に不振となるものと思はれるのである。上海の如き流通經濟的中心は當分貧血状態に置かれることも覺悟しなくてはなるまい。

この經濟的困難を基礎として考察するときは、たとひ中央儲備銀行の發行にかかる新法幣が、上海方面における唯一の法幣となつたからといつて通貨工作としての成功はともかく、新支那經

済の建設といふ面から観た場合には、容易に樂觀することができない。もちろん關係當局はそれについて、充分慎重かつ周到の施策を怠らないであらうと信じてゐるが、何分にも支那經濟の如き老獪なる相手方に對しては、注意深すぎるとか用心しすぎたとかいふことは實際ないものといはねばならない。然し大東亞戰以來の事態はそれ以前と全く異なることでもあり、また如何にしても共榮圏の一部として支那經濟を包擁して行かねばならぬのであるから、徒らに從來の經驗に拘泥して畫策あるひは措置するわけにはいかぬであらう。その意味ではわれわれはもはや舊法幣を克服することに成功するとか、したとかいふ程度で支那經濟を考へないで、別個の觀點から判定し施策する必要がある。すなはち事變當初からの問題であるが、日本側としても、また日本と協力して共榮圏の確立に努める國民政府としても、物の觀點からいかに支那經濟を捉へるかに重心を置くことである。法幣對策とか通貨工作とかに憂身をやつすことはもうやめて、物資の動きを中心として、一切の經濟、政治を運營してゆくべきである。通貨工作は今次の措置をもつて既に充分効果を擧げてゐることでもあるから、あとはそれに心を囚はれぬ工夫が大切である。

(昭和十七年六月)

## 大東亞戰爭における支那問題

民心把握といふことがよく問題になるのであるが、おそらく今日考ふべき支那問題なるものは、この民心把握にその解決の鍵を見出すものといつて差支へないであらう。いふまでもなくそれは中國の民心把握であり、またひろく中國人全般の心を、大東亞の建設に向はしめるといふことに他ならないのだ。このことは、大東亞戰爭のはじまる以前、支那事變の過程において、東亞新秩序の確立といふ目標が掲げられてから、たえず考へられてゐたことであつた。そして一昨年三月、國民政府が南京に還つて來て以來、頓みに具體化された課題なのである。中國の民心把握といふことは、中國の政府自身としても、決して容易なことではない。かつて抗日を標榜し、今日重慶に米英の支援のもとに虚勢を張つてゐる殘存政權が、あへて抗日毎日を強調したといふのも、つ

かみ難き民心を把握せんがための苦肉の策と觀てよいのである。尋常一様の手段では、民心統一の行ひ難きを察して、隣邦日本の權益乃至勢力を、人民各個の私利私欲の對象たらしめ、いはば日本の費用をもつて、支那民衆の歡心を購はむとしたものといふべきである。抗日を煽ることによつて、人民はその口腹の慾を充たす機會と便宜とをえて、政府を謳歌するやうになるといふ見透しのもとに、抗日即民心把握といふ公式を成立たしめたのである。かやうな逆手をもつて人民の歡心を買ふが如き政治が、いはゆる民心把握ではなくして、阿諛迎合以外のなにもでもないことは言をまたぬところであらう。一見、人民が政府のいふところに従つてゐるやうではあつても、それは恰も肉片にありついた犬どもが、さらに他の機會にのぞみをかけて跟いて來てゐるが如くであらう。もはや好餌がないと見きはめがつけば、民心はたちまちにして離反してしまふのであるから、抗日政府はたえず人民の欲心を刺戟すべく努めざるをえなかつたのである。その間、英米等は自己の權益を餌に供せられることをおそれ、あらゆる機會にこれを日本權益の上に轉嫁すべく、抗日政府との苟合を怠らなかつた。かくして支那事變は生れ、大東亞戦争が導かれるに至つたのである。

霸道をもつて「民心把握」を試みた中國政府は、一往成功したあとに、他の危險に曝されざるをえなかつたのであるが、王道をもつてこれをなしとげようとすることは、支那の民情に照してみて、實際著しい困難があるものといはねばならぬ。しかし、もし王道をもつてするならば、抗日政權の陥つたやうな誤謬ならびに危險は全く避けえられることはあきらかである。國民政府は、前者の轍をふむことなく、王道をもつて、すなはち大東亞の建設の理想をいだいて、民心把握に精進しつゝあることは、まことに慶賀にたへぬところである。ただそれには、異常の困難が横はるものと覺悟しなくてはなるまい。人民の利欲に好餌をあたへることにすれば、あるひは一往の「民心把握」は出来るであらう。中國の民情より推していはゆる民心把握は、その邊で満足する他はないといふ霸道主義の論者もあるかもしれない。しかしそれを行つた結果は眞に憂ふべき事態を現出するであらう。われわれは、かかる「民心把握」によつては、大東亞の建設は永久に不可能だと信じてゐる。それによつては、支那問題は到底解決せられないと考へてゐるのだ。その民情に阿ねつて皮相な「民心把握」に陥るくらゐならば、むしろ民心をあへて把握しようとする方策にしたがふべきだ、とすら考へてゐるのである。國民政府當局もまた、おそらく、同じ感

想をいだいてゐるものと察するのであるが、それによつて始めてよく抗日殘存政權をして慚死せしめうるものといはねばならぬ。

大東亞戰爭以來、中國にはゆる事變といふ情勢はなくなつてしまつた。世界をゆり動かすわが作戦の大なる展開は、支那事變が示してゐた戦事は悉く大東亞戰爭に吸収せられて、中國はもはやいかなる意味でも日本に對立するものではなくなつたのである。そして國民政府もまた、日本と相提携する建設者となつた。したがつて、國民政府は「中國のため」にのみ重慶と對立するのではなく、大東亞の建設のために、それを拒否せんとする米英陣營につらなる重慶と背反することになつたのである。しかも重慶は、すでに支那問題の解決者ではなく、眞にその解決にあたり得る者は、日本と協力する國民政府でなくてはならぬことはいふまでもない。そして民心把握をいかにするかはその解決の焦點があるといはねばならぬ。(昭和十八年五月中央公論)

## 二

支那にあつて抗日支那政權の態度に業を煮やしてゐた人々や國際情勢に深い洞察をもつた人々

は、支那事變は、どうしても米英との深刻な鬭争に運命づけられてゐるのだと信じた。その鬭争が現在の大東亞戰爭の形態をとるものであると豫想したかどうかはしばらく別問題として、支那事變は支那だけでは片附かぬといふことに殆んど見解が一致してゐたといつてよい。抗日軍事施設が第三國の旗の下にかくれて、日本の爆撃を免れることも少くなかつたので、わが軍當局の苦心は實際並大抵なものではなかつた。その事實を見聞しただけでも、どうしても米英の反日態勢を叩きつぶすのでなければ、事變の處理は出來ないことを痛感せしめられてゐたのである。また對日後方攪亂工作といふものが常に各地の租界を策源地として進められて、陰に陽に米英等の第三國勢力の庇護をうけてゐた。否、時にはそれらの勢力が相當積極的に援助してゐると思はしむる事實に出會ふことも稀ではなかつた。支那にある租界を制壓することが治安工作の上から、また對重慶經濟工作の上から、どうあつても必要だといふことは、何人も疑はなかつた。日本の第三國權益の尊重、事變不擴大の方針、支那國民を敵とせざる態度等に便乗して、米英はかなり露骨に、抗戦資材の補給は勿論、一切の抗日戦線の支持援助をつづけつあつたのであるから、米英を叩きつけない限り、支那の抗日態勢を爰除することは出來ないと思はせられたのである。

法幣價值維持のためにイギリスの拂つた努力といふものは、必ずしも直接反日戦争の支援といふわけではなかつたので、彼自らの利益のために、この支那幣制の支配を企てたものと考へられるのであるが、その結果においては、重慶側の抗戦力を強化する上に重大な役割を果してゐたのである。だからわれわれとしては、その抗戦力を枯涸せしむるためからいつて、イギリス、後にはアメリカの法幣援助を許し難しと観たのだ。もちろん總じて米英等の支那援助は、自らの東洋乃至支那における地歩と權益の擴充に對する逞しき野望の現れであつて、そのために支那をして日本を叩かせるやうに尻押しをやることになつたといはねばならぬ。支那は支那で、これらの援助が何を狙つてゐるかを熟知の上で、ともかくも逆用して日本の進展を阻止しようと考へてゐたので、決して單純に傀儡として躍るものではなかつたといつてよい。

かやうに支那乃至米英はいづれも日本を叩くことにおいてだけ一致して、支那事變の展開に協力することになつたのであるから、この事變は必然に大東亞戦争を約束してゐたものといへる。だからこの大東亞戦争をもつて、支那事變を含む大規模な戦争だと考へるよりは、むしろ支那事變に含まれてゐたものが全面的に表に現れ出たのが大東亞戦争だといふ方が適切である。従つて

この大戦争になつてからは、一切の反日陣營が正面に出て來たので、作戦は著しく明朗となり、純粹性をたかめて、いはば手當り次第に擊破して行くことが出来ることになつた。三年、四年の間隱忍しながら待望してゐた境地が忽然として拓かれた感じがするのである。この意味で大東亞戦争そのものこそ支那事變の處理の方式であるといはねばならない。これは、東亞の新秩序を確立しようと日本が決意した時に明確に規定された事變處理の方式であつて、それから以後、日本は最早支那の抗日勢力といふものを相手とせざる立場に飛躍してゐたのである。支那事變といふものは、日本にとつて、世界秩序の新建設のために努力する勇猛心を奮ひ起さしむる門出をつくつたもので、その處理のためには相當長期に互り國運を賭するを辭せずと思はせた所以である。

抗日支那は、ただ日本に對する抗戦に終始して來た。戦局が不利となるに及んで、いはゆる對日包圍陣形の結成を企て、その一翼をつとめるに汲々としてゐた。これに反して日本は、當面の敵性として現れたものを擊破する方針のもとに、常に東亞の新なる秩序の樹立のために一路邁進して來てゐるのだ。日支間の抗争とか、和平とかに捉はれることなく、まさに和戦を超ゆる立場にあつて、世界の新秩序を策定することに全幅の努力を傾注して來てゐるのである。われわれは

この日本の雄偉な姿を、その努力の跡の立派さを世界に誇つてよいのだ。そしてそれが、世界が今後樹立すべき秩序を支配する指導精神の具體化であることを、世界の國民に告げ知らせなくてはならぬと信ずるものである。日本國民の戦ひつつあるところが、聖戦とよぶにふさはしいものである所以を、敵味方を問はず汎く知らせたいのである。日本を打倒しさへすれば能事了れりとする戦争目的をもつた支那乃至米英の如きは、新しき時代、來るべき文化の黎明をさへ會得しない徒輩だといはねばならない。(昭和一七・六・二七東日)

## 三

われわれは、支那事變をもつて單なる日支の抗争として考へてゐなかつた。支那を督戦する米英との闘争とのみは信じてゐなかつた。だから大東亞戦に入つたからといつて、ただ戦争がやりよくなつたといふまでで、國の建前或ひは國是に何等さし響くところはない。暴支膺懲と同じく、暴慢なる米英を碎くことに聊かも手を緩めはしないが、それらの敵性國家群と對立抗争するだけに成り下ることを潔しとせぬ心境に生きてゐるのだ。この信念こそ日本の高邁な精神文化の根源

なのだ。蓋し對立抗争だけに没頭し、戦争をその限りで行ふものは、戦敗國に對して搾取いたらざるなく、その民に對して苛政をもつて臨むことになるのは當然であつて、自然、制壓のための制壓以上に出ることが出來ぬのを常とするであらう。われわれは、新秩序の建設のために、その途上に現れた障碍を排除する必要から、彼らの挑戦に應へて、これを撃滅しつつあるのだ。その志は、戦争としての事變を處理するだけではなく、新文化の建設としての事變を處理せんとするにある。したがつて占領地工作にあつても、その原住民の生活を安定し、その生業を育成することに多大の考慮を拂ひつつある。支那事變の過程において、多くの第三國人たちが、日本の占領地工作を甚だ手緩いと評し、われわれならもつと上手にやるといつてゐたのは、専ら對立觀念をもつて敵國民を苛めつける建前から生れ出た感想に他ならぬのである。われわれはその意味において日本は下手だと評されることに、むしろ搾取誅求を潔しとせざるわが態度に深き矜りをさへ感ずるものである。

この超對立的ともいふべき高邁なる見地から、日本自らをあくまで深め、ひろめてゆくことこそ、事變處理の根本義だと信ずるものであるが、少くも大東亞戦争となつて以來、和平にせよ抗

戦にせよややすれば對立的に考へられ易かつた日支の關係が、全く對立的に觀られなくなつたことは、事變處理の根本義に照して、甚だ幸ひとしなければならぬ。日本は支那と對立する立場にあるものではないことを、現實に示し得たといふことは、日本の建前を中外に顯揚する上に、最もよろこばしいことである。つまり日本に食ひ下ることに専念してゐた抗日支那を、現實的にも理念的にも完全に振切つてしまつたといふことは、新秩序建設の上に、また事變處理の上に、重大な階梯に進んだものといはざるを得ないであらう。重慶政權は、米英との關聯を全く遮斷され獨力抗戰の餘儀なきに至つたといふばかりでなく、もはや如何なる點においても支那事變の擔當者たる資格を喪つたことを意味してゐるのである。彼は依然としてまだ參らないのだと呼號しつづけるであらうが、日本が討伐軍を差向けない限り餘喘を保つてゐる敗殘政權にすぎぬものになつた。だから重慶の敵性のみを中心として、支那事變を觀る解釋からいへば、事變は既に片附いてしまつたといつてもよいのである。大東亞戦争の核心として支那事變を考へるからこそ、まだ今後その處理が残されることになるのであるが、もし重慶だけを氣にかけての事變ならば、もはや解消してしまつたといつても差支へはない。支那は、大東亞新秩序の下に見直されること

になつて、日本と對立する地位にあるものではなくなつたのである。國民政府の和平建國といふことすら、現下の情勢よりいふときは、大東亞建設の一前提にすぎなくなつた事實に深く思ひをいたすべきである。

事變處理は、究極するところ大東亞建設にあるのではあるが、現實の施策において、その建設の重要課題は、支那及び支那人にあるといはねばならない。北方より南方にまで及ぶ多數の支那人を、いかに政治的にまた經濟的に組織だてるかが、その課題を解決する上に相當重要性を與へるものと考へてよい。さらに支那そのものにいかに政治上、經濟上において、建設のための合目的性をもたせるかが、重要視さるべきであらう。それに関しては既に國民政府の強化といふ方針も確立してゐることでもあるから、特に問題とすべきものがないといへるのであるが、その強化の方策については功を急ぐの餘り施策が一面的にならざるやう、慎重を期さねばならぬものと信ずる。たとひ改組還都の國民政府であつても施政日なほ淺く、殊に治安上の處置に多大の力を注ぐべき場合でもあるから、政治經濟方面については漸を追うて進む必要がある。またいはゆる南洋華僑は、大東亞戦争以前、國民政府の華僑工作もあるにはあつたが、容易に恭順の意を表す

るに至らなかつた。大東亞戦争以後その動向はわが施政下に置かれる者が多くなり、またタイ、佛印等にあつても日本の指示にしたがふ他なき状態にあるのであるから、戦前とは餘程事情を異にするものがあるであらう。

しかし國民政府治下の支那人と同様、決して甘やかすことは出来ない。かつて國民政府の華僑工作は、民心把握の方針をもつてこれを引き寄せんと試みたものであつただけに、懐柔策といふ以上に甘やかす傾向があつたのではないかと察せられるが、今後は新なる事態に即應せしむべく相當強硬措置を採るべきだと考へられるのである。支那及び支那人問題は重要ではあるが、徐々にまた寛嚴よろしきを得るならば、その施策上に著しき困難はないであらう。近時しばしば南方問題が忙しくなつてから、支那に對する關心が薄らいだのではないかとの懸念もあつたが、それは杞憂にすぎない。むしろ留意すべきは、支那人たちが南方地域での活動に着目して、交通の自由が得られ次第に支那大陸と南方地域との經濟接觸に乗り出さうとする機運の濃厚なことであらう。日本からでは交通の便がないといふので出足が遅るのに反して、彼らは、いかなる徑路をも利用して陸路或ひは海路を通じて滲透してゆくことが想像されるのである。物資が水の浸み込む

ごとくに流れてゆく支那は、人も亦、いつとはなしに動いてゆくのが常である。大東亞建設途上の幾多の問題のうちで、おそらく支那及び支那人問題の如きは、相當考慮すべきものといはねばなるまい。(昭和一七・六・二八東日)

## 四

支那事變の當初から、抗日政府としては、日本と戦ひを交ゆるからには、相當大懸りのものとなる覺悟はもつてゐた筈であり、支那奥地に日本軍を誘導して長期戦をたたかつて、日本を参らせようといふ目算もあつたと傳へられるのであるが、いづれにもせよ、事變の結末は充分自主的に處置し得るものと信じてゐたであらう。すなはちたとひ米英の支援をあてにはしても、これらの第三國と一緒になつて、聯合戦線の一翼たる役割を果すにとどまるほど、情ない状態に立ち到るものとは考へてゐなかつたに相違ない。第三國からの對日恫喝や斡旋調停の程度で、先づ大體片付けられるものと考へて、支那事變については相當自主的解決の面目がたもてるものと自惚れてゐただらう。ところが、如何に強がりはいひ虚勢を張つて見ても、戦局は日を逐うて不利とな



つて、最早頽勢を挽回する見込がたなくなつたので、米英に縊りついて、どうでもして抗日政權の存立だけでも保持しようとする覺悟をきめたわけであるが、これは重慶としては、不本意とするところであつたに違ひない。法幣安定のための資金援助とか、抗戰繼續のための資材補給とかいふ程度を超えて、アメリカの對日經濟壓迫を促進するやうに働きかけるに至つて、重慶は自主抗戰の旗を捲いてしまつたものといはねばならぬ。彼は武力戰より外交戰あるひは經濟戰に主力をそそぐのだといふやうないひわけをしながら、他力による抗戰繼續に移つたのである。そして歐洲戰線で忙殺されてゐるイギリスの代りに、アメリカを主導者に仕立てて、對日包圍陣營の結成につとめることになつた。この時において重慶は全く一個の敗殘政權たるにすぎぬことを、中外に告白したものといつてよい。あたかも蘭印政權と同じやうに、米英の驥尾に附してなら對日戰爭がつづけられるが、自主的な抗戰主體たり得なくなつたことを自認したに等しいのである。この意味で重慶も、自分が惹き起した支那事變のうちにとれほど複雑にして深刻な難問が含まれてゐたかを、大東亞戰になつて見て、始めて明瞭に納得することが出來たに相違ない。

自主的抗戰の自惚を失つた重慶は、大東亞戰開始とともに、日本の破竹の進撃に相次いで崩れ

去る米英勢力の脆弱性を目前に見て、過去四年に互つて、ともかくも日本軍に抗爭を續けて來たことが、相當高く評價されてよいものだといふ自己陶醉に陥ることになつた。をかした話である。負け方が少いといふことで、負けてゐる仲間だけに通用する自惚に耽つてゐるといふのも、たよりにないことだ。更に米英がこの重慶のはかない自惚をしきりにおだてあげて、重慶の自主的抗戰への熱意を復活させようとつとめてゐるのも、その自惚が米英を見くびることによつてのみ生れたものであることを考へるときは、かかる態度を示してゐる米英は、まことに笑止な存在である。今となつては、おそらく重慶は、米英が助けて呉れたことを逆恨みする氣分にもなつてゐるであらう。元來、米英の支援を單に差當りの方便ぐらゐに考へて、自力抗戰を過信した重慶のこともあるから、結局は、それほどの援助も出來ないくせに、支那を援けるなど生意氣な申出をした米英が怪しからんといひ、更に日本に對しても、これほどの實力があつたのなら、豫めそれとわかるやうにして呉れて欲しかつた。さうすればこれほどの大事に至らせないで済ませたものと愚痴ともつかぬ逆恨みをやりかねないのである。あるひは日本國民自らも、充分に自分の力を認識してゐなかつたといへるかもしれない。機に臨み變に應じて發動するわが實力を、事の起らぬ前

に豫知しなかつた。そこに、かへつて日本國民の眞摯な態度が見出されるが、抗日支那政権の如くに米英の援助をも自らの實力のうちに加算して、日本を撃破する準備が充分出來たやうに氣構へするのとは、まさに雲泥の差だ。この精神的相違の間にこそ、支那事變の歸趨をおもふべきであるが、かやうに日本の實力が未知數であつたといふところに、また支那事變をめぐる支那乃至米英の大きな錯覺と誤算との根源が横はつてゐたといはねばなるまい。いふまでもなく他國の實力を測定するといふことは、至難の業である。況んや、戦時において總力を舉げて行動する國家國民の勢ひといふものを、事前に検討することは、いはば神技を要するものとも考へられるし、殊に日本國民のごとく舉國一致の態勢を整ふることに他國に類を見ざる國家については、一層その感を深くさせられるのである。それだけに支那乃至米英としては、餘程入念に考慮すべきであつた。

昨今、自ら手も足も出ぬやうに感ずるに至つて漸く日本の不敗の態勢におどろいてゐる彼等の分別の淺墓さは、想像以上といはねばならない。おもふに彼等は、いづれも自國のみの力をもつて戦ひ抜くといふ最終的決意に缺けてゐた。支那は日本打倒の選ばれたる闘士をもつて自任はし

ても、當然米英の援助が豫定されてゐたし、米英にしても支那が相當やれると信じて、援助するつもりになつたのであるから、自國の興廢にさしひびくことのない小手先の仕事と考へてのことであつた。日本の實力に對する誤算に加へて、自らの決意が清楚を缺いてゐたのである。しかし何故にかかる輕率なる反日戦への協力に米英が誘ひ込まれたのであらうか。一度は日本を叩かなかたは、といふ彼等の意欲を、抗日支那を通じて實現して見ようとする安易さは、如何にして生じたのであらうか。おそらく米英としては日本の力に對して過小評價をやると共に、抗日支那の實力を過大に評價した結果であらうが、この支那を評價することに重大な錯覺をなしたといふことは、日本を取つて抑へたいといふ豫ての希望に、あまりにもつよく左右されたためであつたであらう。すなはち現實の支那が如何にあるかを見ようとしないうで、かくあれかしと希望した支那を、そのまま實際にある支那の姿と判定した結果、かかる誤算をあへてするやうに導かれたのである。希望意見に動機づけられた支那認識の餘弊は、眞におそるべきものがある。反對に日本を抑へたいといふ希望によつて日本認識をゆがめてゐたこともあつたから、支那からの援助要請に對して易々と乗り出すに至つたのである。(昭和一七・六・二八報知)

## 五

かやうにして生れ出た米英等の對支援助は、抗日支那にとつても、米英にとつても、實際の役立ちよりは、遙かに重大視せられる結果となるのも當然である。支那は、この援助があるからには對日戦争はうまくやれると考へ、米英は、支那がうまくやるだらうから援助するのだと決心したところから、反日戦線といふものは、この援助を中樞として結成されることになつてゐたのである。しかし援助はあくまで援助である。いざとなれば支那がやるだらうとか、いよいよとなれば、米英が乗り出すだらうとかいふ兩方の當て推量を樞軸として、大戦争がやりとげられる筈のものではない。米英に見れば、本國から遠いことでもあり、支那の犠牲で東洋の制覇が確保できれば、餘程の費用をかけても安いものだと考へてゐたから、對支援助の相談にも乗つたのであらうけれども、はかない幻影的勢力を中心とした反日戦線を形成するに至つたことは、重大な失策であつた。如何なる場合でも、いづれは自力をもつて戦ひ抜くのだといふ覺悟なしに、他國と事を構へるといふことは、世界の大道を歩む國民のなすべきことではない。聯合國の力を當て

にした戦争などはやるべきではなく、また戦争の決意をすべきものでもないことを、痛感せしめられる。

大東亞戦になつて、緒戦に既に米英の戦力に致命的打撃を與へて、日本恐るべしとの感を世界にいだかしたと共に、日本國民は、自力をもつて戦ひ抜くことの深き決意を固めることになつた。勿論、それまでとても自力以外によるべきものはないことを信じてゐたのではあるが、自らの實力のほどを現實に見定めることが出来なかつた。日本は支那事變を通じて慎重に自らの力を試しかつ養つてゐたことを、必ずしも充分に自覺してゐなかつたといへる。事變の當初、戦時における巨大なる消耗から推定して、日支兩國の抗戦力を云々し、支那は前述の如く奥地に日本軍を導入してあくまで消耗を大ならしむる作戦をするであらうから、長期戦となれば日本側に不利益であるとの判断が支配的であつた。米英の對支援助も、この點を狙つて、支那側は比較的少い犠牲をもつて地の利をもつて日本に對抗し得べしとの考への上に、計畫されてゐたのである。これらの推算において、日本の如き組織せられた生産力を有する國民經濟が、戦時において特異なる生長を成し遂げるものだといふ點について深い考慮が拂はれなかつた。大なる消耗のみを考へ

て、半面に異常なる努力が生産を増大するものだといふことを閉却してゐた。すなはち戦時経済はそれ自ら生長し發展するものだといふ事實を豫想し得なかつたのである。いふまでもなく、あらゆる戦時経済が生長し得るものではない。たとへば重慶の如く抗戦資材を自ら生産する能力がなく、もつばら米英等の第三國からの輸入にまつといふやうな戦時経済は、單純な消耗經濟を意味するもので、事變過程において瘦せ細るばかりである。ただ逐ひつめられて戦線がしだいに縮小し、全體としてゲリラ戦態勢に陥つて來れば、抗戦資材の必要も減ずるであらうし、政權維持の費用も少く済むのである。一方に國內では徴發經濟あるひは掠奪經濟を營み、他方には外國からは借款供與をうけて一應の彌縫はつくであらうが、國の經濟としては、もともと生産力をそなへてゐないのであるから、戦時となれば消耗に壓倒されざるを得ない運命にある。これに反して、自ら生産力をもつてゐる國民經濟は、戦時體制の下において從來に倍加する努力が生産面に傾注されるために大なる消耗があると共に、大なる生産が行はれ得るのである。

日本の戦時經濟は、この後の形態のものであることを、支那事變の過程において必ずしも充分に認識されなかつた。否、戦時經濟自體が、一つの生長體であつて、單なる消耗經濟ではないと

いふ理論がほとんど世界を通じて會得されてゐなかつたといつてもよい。國家の總力を擧げて戦ふといふとき、經濟部面も、戦時下の緊張と熱意をもつて、平素豫想し得ぬ程の生産力の擴充があり得べきものだといふことは、日本あるひはドイツの如く總力戦態勢の完備した國がやつて見せて始めて明かになつた事實であり、また理論でもある。世界の歴史において、これほどの大規模な戦争もなかつたし、従つてかくまで大なる消耗も前例がないだけに、これを賄ふ生産力についても、歴史上の前例を參酌しただけでは見當のつきかねるものであつたことは無理ではない。しかし現實がそれを證明してくれたのである。そこには確かに新なる理論がある。戦時經濟は生長するものであり、日本國家は戦つてゐる間に大なる生長を成し遂げてゐたのである。軍事においてさうであつたやうに、經濟においても、おどろくべき進展があつた。われわれは支那事變のもつ理論とその重要性とを、今日において漸くその一端を知り得たに過ぎないのだ。おそらく、それがいかに大なる意義をあたひするものであるか、今後いよいよ深く感ずることとなるであらう。(昭和一七・六・二九報知)

### 發表の時及び場所

時代と學問	昭和十七年十二月
現代の倫理	昭和十七年一月
「公益優先」	昭和十五年十二月
營團經濟の倫理	昭和十七年六月
營團の本質	昭和十七年十二月
營團法と資本主義の問題	昭和十七年八月
戰爭と營團	昭和十八年四月
營團交易の理論	昭和十八年五月
大東亞交易の思想	昭和十七年六月
交易計畫化の諸問題	昭和十七年六月・ 九月・十二月

實業之日本社發行「國家科學大系」附錄  
 中央公論社發行「日本文化の現實と構想」(標題新文化と倫理)  
 科學主義工業  
 新經濟  
 重要物資管理營團における講演  
 貿易統制會會報  
 日本工業俱樂部座談會談話要旨  
 京都帝國大學、神戸商業大學における特別講演要旨  
 中央公論  
 貿易統制會會報  
 東亞經濟懇談會會報

世界文化と大東亞  
 昭和十七年九月

世界史の轉換  
 昭和十七年十月

東亞經濟の新生  
 昭和十七年七月

現地經濟工作を觀る  
 昭和十五年十一月

法幣小觀  
 昭和十七年六月

大東亞戰爭における支那問題  
 昭和十八年五月  
 昭和十七年六月

創造  
 エコノミスト  
 東洋經濟新報社發行經濟俱樂部  
 講演集

東京日日新聞  
 中央公論、東京日日新聞、報知新聞

昭和十八年九月二十一日印  
 昭和十八年九月二十五日第一刷發行

營業經濟の倫理  
 ◎定價 貳圓參拾錢  
 特別行爲稅 八錢  
 相當額 八錢  
 合計 貳圓參拾八錢

出版會承認 210201號  
 7000部

著者 杉村廣藏  
 發行者 植村道治  
 印刷者 松浦元

(四七三東東)刷印社想理  
 本製田山

發行所 大 理 書 房

東京都牛込區改代町二十四番地  
 電話牛込(34)六四九八番  
 振替口座東京一三八〇七五七九番  
 出版會會員番號一一六一三九號

配給元 日本出版配給株式會社  
 東京都神田區  
 淡路町二ノ九









